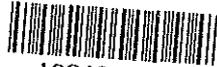


ARY

イラク電気産業訓練センター事業
(フェーズII)
巡回指導調査団報告書

JICA LIBRARY



1094833(9)

23146

1990年4月

国際協力事業団

国際協力事業団

23146

序 文

イラク共和国政府は、本プロジェクト第1フェーズ（1975年9月から1985年3月まで）に引き続き、マスタープランに組み込まれていた第2フェーズの技術協力の実施をわが国に要請してきた。

この要請を受けて国際協力事業団は、1986年2月事前調査団を派遣し、また1986年12月にイラク側調査チームを日本に受入れ、協議を重ねて来た。

その後、イラン・イラク戦争激化により、実施協議が遅れていたが、1988年3月にイラク実施協議チームを再び日本に受入れて協力内容について協議し、1988年3月30日に討議議事録（R/D）に署名・交換を行った。またその後、更に詳細な協力計画策定、及び現地の状況確認のため、1988年6月に実施協議調査団を、1989年4月に計画打合せ調査団を、また、1990年2月に巡回指導調査団を派遣した。

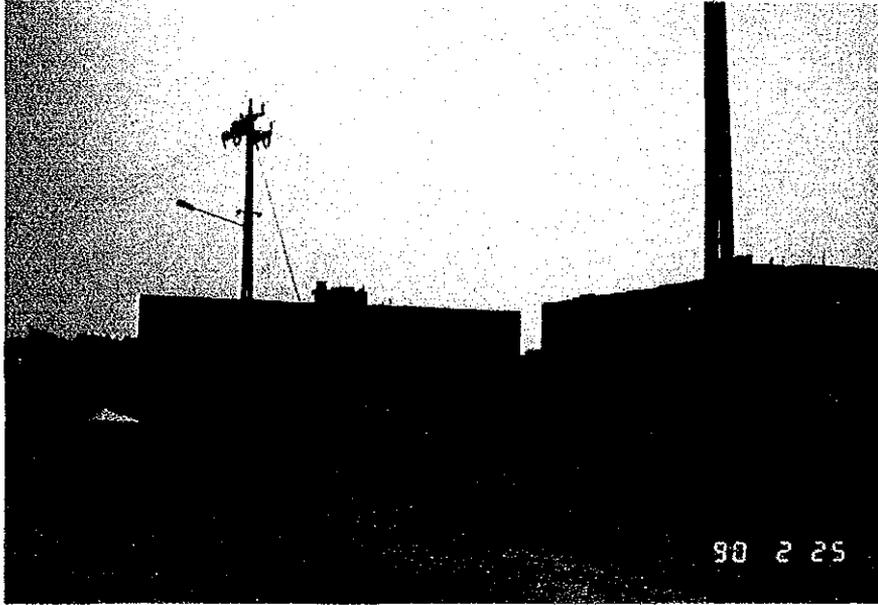
本報告書は、上述の巡回指導調査団の現地調査協議結果を取りまとめたものである。

ここに本件調査協議に対して御協力をいただいた関係各位に対し、心より謝意を表すものである。

平成2（1990）年4月

国際協力事業団

理事 古 閑 俊 彦



EEITC
工場自動制御部門
工場照明・配電部門
全景



M/M 署名



目 次

序 文

写 真

目 次

I	背 景	1
II	本調査団の派遣	2
III	協議内容のポイント	4
IV	協議内容	6
V	部門別（個別）協議内容	14
VI	バグダッド市内ホテル調査	33
VII	M/M	36
VIII	イラク情勢案内	63
IX	バグダッド案内	75

I 背 景

A. 要請内容および背景

本プロジェクトのフェーズⅠについてはエレベーター、冷凍空調機器、一般電子機器の3分野において昭和50年9月より昭和60年3月まで実施した。

昭和60年2月、本件フェーズⅡにかかる協力要請を受け、昭和61年2月21日より3月5日まで事前調査団を派遣、同調査団の調査結果およびその後の「イ」側との公電ベースによる協議の結果、自動制御、工場配線および照明、パーソナルコンピューター、エスカレーター等の4分野について協力の可能性があることを確認した。

昭和61年12月、さらに昭和63年3月に「イ」側関係者が来日し、昭和63年3月30日にR/Dの署名を行った。その後同年6月28日より7月6日まで実施協議調査団を派遣し、R/D、Master Planの再レビュー等を行うとともに、平成元年4月10日より21日まで計画打合せ調査団を派遣し、平成元年度における実施計画について協議した。

(関連公信電 昭和60年月20日「イ」発102号)

B. 対応方針

(1) 機材供与については既に昭和63年度分として工場照明配線部門の一部およびエレベーター部門全部の機材を、平成元年度には工場照明配線部門の残りおよび工場自動制御部門の全部および4部門共通の機材を供与してある。平成2年度にはパソコン部門にかかる機材を供与する予定であり、その実施計画について協議することとした。

(2) 専門家派遣については平成元年度にエスカレーター部門における機材据付専門家を派遣しており、平成2年度においては、他3部門における機材据付専門家を派遣するとともに、4部門における技術指導専門家(約6ヶ月)を派遣する予定である。

研修員受入れについては平成元年度において6名のC/Pを受入れた。平成2年度においては4～5名の受入れを、めどに検討することとした。

II 本調査団の派遣

A. 協議・調査項目

- 1) 1990年度機材供与・専門家派遣・C/P受入れ計画
- 2) 専門家の派遣対応策
- 3) その他の問題
 - ・カリキュラムの見直し・確認
 - ・既供与機材の保管状態にかかる調査

B. 調査団構成

総括・団長	国際協力事業団 鋳工業開発協力部 部長 山崎宗重	163 新宿区西新宿 2-1 新宿三井ビル 48F 北 私書箱 216号 TEL 346-5304 F. 346-5439
技術協力計画	通商産業省 通商政策局 経済協力部 技術協力課 通商産業技官 藤代尚武	100 千代田区霞が関1-3-1 TEL 501-1511 F. 501-2081
エスカレーター	菱電サービス株式会社 技師長 中野光倫	100 千代田区大手町 2-6-2 日本ビル TEL 801-0593 F. 806-4810
パーソナル コンピューター	日本電気株式会社 海外研修センター 担当部長 神嶋俊博	105 港区芝 2-22-12 日本電気第2別館 TEL 455-1111 (代) F. 798-3391
工場自動制御	山武エンジニアリング株式会社 取締役販売部長 清水 正	108 港区芝浦 3-17-12 吾妻ビル TEL 456-4511 F. 456-4490
工場照明配線	昭和電機工業株式会社 第1事業本部 電気統括部 技師 藤井利光	105 港区東新橋 2-7-3 TEL 437-3851 (代) F. 434-5738

業務調整

国際協力事業団 鉱工業開発協力部
 鉱工業開発技術課 桑原直也

163 新宿区西新宿 2-1
 新宿三井ビル 48F 北
 私書箱 216号
 TEL 346-5304
 F. 346-5439

C. 調査日程

		行 程	調 査 内 容
2/17	土	VS-901 東京 → ロンドン 12:30 15:45	移動
18	日	RJ-112 RJ-812 ロンドン→アンマン→バグダッド 10:45 18:00 20:15 22:45 (団長はアンマンより合流)	移動
19	月		大使館表敬・工業省表敬
20	火		EEITC 協議
21	水		EEITC 協議
22	木		EEITC 協議 (個別)
23	金		資料整理・M/M作成
24	土		EEITC 協議 (個別)・M/M作成
25	日		M/M 確認
26	月	AF-137 バグダッド → 23:45	M/M 確認署名 大使館帰国報告
27	火	AF-276 → パリ → 06:00 15:00	移動
28	水	→ 東京 10:55	移動

Ⅲ 協議内容のポイント

1. 専門家の住居費等

- (1) 日本大使館の情報によると、'89年後半以来、バグダッドにおける住居費が異常に高騰している。

例えば、1年間の家賃が以下のとおり上昇した。

アメリカ大使公邸 2,8000 ID → 80,000 ID
(1,806万円) (3,720万円)

PLO 13,000 ID → 70,000 ID
(605万円) (3,255万円)

ある事務所 15,000 ID → 65,000 ID
(698万円) (3,023万円)

ソ連大使館 25% up

(但し、ソ連大使館の場合は、「イ」国の外務省を含め、各方面に時間をかけて圧力を加えた結果である。)

日本大使館 家主は当初2.5倍の家賃値上げを要求したが交渉に交渉の末33% up
にとどめた。60,000 ID → 80,000 ID
(2,790万円) (5,160万円)

一般住居、ホテルにかかる価格も同様極めて高額である。

- (2) 「イ」国内における物価の高騰は、①住居費のみならず、②車…例えばトヨタ・クラウン 85年=35,000 ID, トヨタ・スーパーサルン 89年=85,000 ID, レンタカー(市内のみ使用) 70 ID/12時間, 10 ID/時), ③食事…ホテルでの朝食 4.4 ID,
(1,628万円) (クラウン) (3,953万円) (32,550円) (4,650円) (2,046円)

昼食 13.6 ID, 20人の会食(中華料理 625 ID), ④生活必需品を含め全体について同
(6,324円) (290,625円)

様のことが言える。

かかる状況下においては専門家はJICAから専門家に対して支給される手当のみにては「イ」国内において生活を維持することは極めて困難である。本プロジェクトの専門家としてよりよい人材をリクルートするためには、それなりに「イ」側の受け皿がしっかりしていなければならない、現況に対する特別の措置をこらざる必要がある。

(N. D. 3. (4) および 4. (2)~(3) を参照)

2. 消耗品・スペアパーツ等の手配・交換について

- (1) 消耗品・スペアパーツ等の手配・交換については、'88/3署名のR/Dにて「イ」側が負担することで「日」「イ」両側が合意済である。
- (2) 特に「日」側の技術協力期間終了後('93/3)においては、これらを「イ」側が独力で調達することが、当センターの「イ」側の自立達成に不可欠である。
- (3) Phase I においては「日」側がR/D合意事項にかかわらずこれらを含め丸がかえの協力を実施していた経緯があり、「イ」側はPhase II においてもPhase I と同様、「日」側による丸がかえの技術協力を受けることを当然と考えており、消耗品等の自己負担どころかさらに機材の追加供与 — 本センターの目的/レベルに全くそぐわないものを含め — を依頼している。Phase I と Phase II は別々のプロジェクトであり Phase I で認められた“例外”がPhase II においても認められると「イ」側が考えることは甚しい誤解である。
- (4) 消耗品、スペア・パーツの「イ」国内での調達の可否については、「イ」側内にもメンバーにより両極端の異った回答が見られるが、一般にC/Pにおいては、それら調達に対する努力よりも、一方的に「日」側に依存している傾向が非常に強い。
- (5) 以上、当センターの将来を考慮し、「イ」側の自立意識、責任意識を強化するためにも「日」「イ」両側の責任分担は、原則として当初の合意通り実施すべきである。

Ⅳ 協 議 内 容

A. 運 営

1. コース・スケジュールの変更

「イ」側は「日」側に対し、コース・スケジュールについて以下の変更がすでに実施されたことを伝えた。

- ① 本センターは当初3年間教育を実施する計画であったが、同国の電気産業界における人材不足への対応として工業省の命により、初年度に入学した生徒についてのみ2年間教育を実施することとする。つまり3年間に実施される計画であったカリキュラムを2年間教育に濃縮して実施する。
- ② よって、当初3年間教育のうちの1年目に基礎教育、2～3年目に専門教育を実施する計画は、上記変更に伴い、1年目より専門教育を含めた基礎教育を実施する運びとなり、実際に'89年10月よりそのように動いている。
- ③ 但し、工場自動制御部門においては当初他3部門同様'89年10月に実施を開始する予定であったが機材が未据付等の理由によりそれを延期し、'90年10月に開始する予定となっている。

本件について「日」側は「イ」側に対し、「イ」側が以下の点について一切の責任を負うという条件の下、上記コース・スケジュールの変更を了承することとした。

- ① 初年度（'89年10月～'90年9月）中の専門教育の冒頭においてエスカレーター部門においては operation method および電気取り扱い、工場配電・配線部門については電気取り扱いを中心とする安全面にかかる教育を実施すると共に、当該部門における初年度（'89年10月～'90年9月）教育においては実習は行なわず、講義による教育のみ実施する。
- ② '90年8月末に技術指導専門家が派遣される時点において、自動制御部門を含む全部門における生徒は当初予定していた基礎教育を終了している。
- ③ 各部門における今後の生徒数を確保する。工場自動制御部門については「イ」側は Electric course, 8 bit パーソナル・コンピュータ course よりよせ集める計画でいる。
- ④ 「日」側「イ」側間の今後のコミュニケーションにおける誤解を避けるため、学年にかかる言葉を以下の通り定義する。

工場自動制御部門

'90年10月入学の生徒について

'90年10月時点 → 2年生

'91年 " → 3年生

他 3 部門

'89 年 10 月入学の生徒について

'89 年 10 月時点 → 2 年生

'90 年 " → 3 年生

2. 各部門の生徒数

各部門における '90 年 2 月 26 日時点の生徒数は以下の通り

エスカレーター 31 人

パーソナル・コンピューター 34 人

工場自動制御 ('90 年 10 月に 30 名の予定)

工場照明配線 32 人

B. 機材供与

1. 検収結果の速やかな通報

- ① 工場自動制御部門用機材 (全部)
- ② 工場照明・配線部門用機材 (第 2 回搬入分)
- ③ 共通機材

'90 年 3 月にプロジェクト・サイトに到着の見込みであるが、同年 4 月を目途に①、②にかかる機材据付専門家を派遣する手続きの関係上、「イ」側はそれら機材にかかる検収結果を速やかに「日」側に通報する。

2. 共通機材の追加供与

- 「イ」側は「日」側に対し、VCR(VHS)+TV+TV台の供与について、さらに 3 セットの追加供与 (すなわち結果として 1 コースに 1 台ずつ) を、またビデオ・カメラ 1 台の追加供与を要求した。
- それに対して「日」側は「イ」側に対し、今後 1 年間の「イ」側によるビデオ教材 (ソフト) の供給状況を確認した上で、上記を検討すると回答した。
- なお「イ」側は「日」側に対し、初年度 ('89 年 10 月 ~ '90 年 9 月) において 4 コース全体で 50 ソフトを作成する計画であることを伝えた。

3. 基礎教育にかかる教材

基礎教材については、原則として「日」側は「イ」側に対する協力範囲外ではあるものの ('89/4/19 署名の M/D に記載の通り) 具体的な仕様が「イ」側より提出された上で、「日」側がその供与を例外的措置として実施する必要性があるかどうか検討することとする。

4. アナライザーの供与

「イ」側より要求されていたアナライザーの供与について予算上の問題および中卒者を対象とする本セクターの機材としてはアナライザーは技術レベルが高すぎることにより、「日」側は「イ」側に対し、その供与を断った。

5. 停電による機材の事故

「イ」側は「日」側に対し、停電により機材に一切の支障が生じないよう「イ」側はあらゆる配慮をこころじる（特にパーソナル・コンピュータに対し）責任を有すると共に、万一停電により機材に支障が生じた場合、「日」側はそれに対し一切の責任が無いことを確認した。

6. 供与機材の使用

エスカレーター部門の機材の据付（'89/10～'90/2に実施）においてエスカレーターの Installation に必要な工具が供与機材の中にあっても、それが Maintenance 用として供与されたものであると、C/P は専門家にそれを理由に使わせないということがあった。また、工場自動制御部門においても同様、機材据付（'90/4/中旬～5/中旬を予定）に必要な工具、試験機が供与機材の中にも含まれていても「イ」側に供与されたものは「イ」側の所有物であるとの理由をもって C/P は機材据付専門家に対し機材据付に必要な工具等は、専門家が持参するよう今般調査団の個別協議において要求があった。すなわち「イ」側は供与された機材は自分達だけのものであるという意識があるように思われる。

したがって、今般「日」側は「イ」側に対し、供与された機材はプロジェクト実施に必要な機材として供与されたものであること、その目的を果たすために供与機材は有効に使用されるべきであることを R/D 合意事項を引き出して確認した。

7. 消耗品、スペア・パーツ等の「イ」側による手配・交換

消耗品、スペア・パーツ等の手配・交換について「日」側は「イ」側に対し R/D の V3 の項目を再確認した。「イ」側は Phase I プロジェクトにおける経験を引用し、これらは「日」側の責任に基づいて供与されるべきであると強調した。これに対し「日」側は以下の理由により、R/D による合意事項を「イ」側が履行することを主張した。

- ① 本件は R/D 署名によってすでに合意されたことであること。
- ② プロジェクトの実施は「日」「イ」両者の協力関係に基づいて行われるものであり、「イ」側は「日」側に対し、その全てを依存するものではないこと、合意に基づくそれぞれの責任分担はそれぞれによって守られるべきであること。
- ③ 「日」側による技術協力期間終了（'93/3）後の円滑なセンターの運営を考慮した際、本件について「イ」側が自力で実施する能力を有することは必至であること。
- ④ Phase I で認められた“例外”が Phase II においても認められると理解することは

論外である。Phase IにおいてもR/Dに同項の記載があるにもかかわらず、実際にはそれが施行されなかったのは例外的な措置があったためである。当方はその事情に精通していないが「イ」側はそれをPhase IIについても当然認められると理解している(と「イ」側は主張した)ことは遺憾である。

- ⑤ 本プロジェクトのR/Dは他国のものを含め数多くあるJICAプロジェクトと同じフォーマットにより作成されたものであり、本プロジェクトがいずれの第3者の目から見てもやむを得ないと判断される特殊事情(Ex.大地震による経済システム破壊)のない本プロジェクトは、その基本項目について守られるべきである。

なお、③に関連して「日」側は「イ」側に対し「日」側による技術協力期間終了後のMakerとのメンテナンス契約、リペア契約について示唆した。

8. 据付工事の作業者

エスカレーター部門において機材据付工事('89/10~'90/2に実施。他部門については来年度より実施)の際、「イ」側は据付作業者として生徒を用意した。これについて「日」側は、「イ」側に対し据付については高所における作業、電気取扱い作業等、危険を伴う作業が含まれるため、専門のトビ職人等を雇用するよう要求した。

これについて「イ」側は、エスカレーター部門における機材据付において使用した据付作業者のうち4名は本センターの卒業生、すなわち現在は外部の間人でskilled workerであること。また、それ以外も本センターの生徒の中でも優等生を選んで作業につかせているため、問題ないと主張した。

9. 生徒の実習にかかる安全性の問題

エスカレーター部門においてすでに据付済の機材に関し、それを使用する生徒に対して若干の安全性が危惧される点が見受けられた。安全性に対する注意はエスカレーター部門以外に工場照明・配電部門においても重要と考えられ、当該部門においてはC/Pが事故防止のために「イ」が必要な措置をとるべく、要求した。

10. テキストの作成

生徒用テキストの作成についてはC/Pがアラビア語で作成することとなっているが、エスカレーター部門においては、「日」側が供与した英文テキスト(数百万円かけた)を利用して「イ」側が実施することとなっているアラビア語への翻訳作業は全く着手されることなく、そのままになっていることが判明した。よって「日」側は「イ」側に対しC/Pはテキスト作成について積極的に働きかけるよう忠告した。

C. C/P受入れ

1. 男性のC/Pの選考

- (1) 「日」側は「イ」側に対し、エスカレーター部門および工場、照明・配電部門について、日本において研修を受けるC/Pの候補者は女性ではなく男性を選考する旨強く要求した。
- (2) 上記の理由は、日本における当該分野の現場部門に従事する人間は100%男性であり、①研修施設内には女性のための設備を欠いており、女性C/Pには日常不便および不快感を与えること、②実習においては男性並みに体力を要する作業、衣服を甚しく汚す作業、危険を伴う作業等が、多く含まれること、によるものである。
- (3) 工場照明配線部門における男性C/Pを'90年度C/P受入れ時期に合わせてリクルートすることは極めて困難であるという「イ」側の説明に対し、「日」側は同分野における'90年度C/P受入れ枠分をとりあえず他分野に回し、その分を含め'91年度に2名を受け入れる方法もあることを説明した。

2. 一年生用教師の受入れ

「イ」側は「日」側に対し'90年度一年生担当(基礎教育)教師をC/P研修員として選抜した旨説明した。「日」側は「イ」側に対し本技術協力は原則として基礎教育は含まれないことを確認すると共に、本技術移転において4分野におけるC/Pの早期技術習得の重要性を強調した。これら説明に対し「イ」側から「日」側に、一年生担当教師をC/P研修員候補とすることを止りやめる旨の回答を得た。

3. C/Pの協力性

「日」側は「イ」側に対し、日本において研修を受けるC/Pはその専門分野における技術レベルと同様に、日本においてJICAおよび研修先に対し協力的で心身共に健康な人材を選考するよう要求した。

これについて「イ」側は'89年度C/P受入れにおいて起こったような一部のC/Pのあるまじき素行は今後発生しないよう約すると共に、もし万一C/Pにこの種の行為が見られた場合は直ちに直接センター所長に対しletterにて通告されるよう申し出された。

D. 専門家派遣

1. 専門家の役割

「日」「イ」の両側は、本プロジェクトにおける専門家の役割りはC/Pに対して技術移転を実施することであって、生徒に対して教えることではないことを確認した。

2. 生徒の事故に対する責任

「日」側は「イ」両側は実習中などにおいて万一生徒が事故に遭った場合、「日」政府及び専門家は一切の責任を負わないことを確認した。

3. 住居

(1) 専門家用の住居として下記の3種類が想定される。

- ① 住宅（一軒家・アパート）……例えば長期専門家を対象として
- ② ホテル — 長期滞在者用宿舎…例えば5～6ヶ月滞在の専門家を対象として
- ③ ホテル — 短期滞在者用部屋…例えば1ヶ月以下滞在の専門家を対象として

(2) 「イ」側は「日」側に対し

- ① 住居に関して適切な情報／アドバイス提供および
- ② Owner との契約等の交渉の点において

専門家への協力を確認した。

(3) また「日」側は「イ」側に対しR/D V1 (5)で合意の通り、「イ」側が専門家の住居費を負担すべき点を指摘した。

また「イ」国における物価の高騰を考慮した際、JICAの手当だけで専門家の生活を支えることは極めて困難であり、よりよい専門家を本プロジェクトにリクルートするためには「イ」側の協力が非常に重要である点を「日」側は強調した。

(4) これに対し「イ」側はその「日」側の指摘を実行することは非常に困難であることを強調しながらも以下の提案をした。

① 実際の住居費（家賃）がJICAが専門家に支給する住居手当を上回る分（差額）を「イ」側が負担する。但しこの方法は住居手当と生活手当が一括して支給され、それぞれのShareがあいまいになっている短期（1年以下の派遣）専門家を対象としての実施は無理である。

② 専門家はEETCにあらかじめ定められた一定額（例えばUS\$50/night）を支払う。その額と実際の家賃との差額は工業省が補填する。「イ」側より出されたこの方法に関する条件は④専門家はEETCに対して支払うこと、⑤支払いは外貨にて行うこと、⑥専門家の住居はそれぞれが最もふさわしいと思うところをそれぞれで選択すること、である。

以上の方法はあくまで一例として「イ」側から出されたものであり、「日」「イ」両方にとって額／支払い方法を含め問題を残す。よって本件にかかる具体的な方法等については3/3に「イ」国入りするコーディネーターが「イ」国における生活状況（食物・生活必需品等の物価）を調査した上で、当人が「イ」側と協議して決定することとした。

4. 車

(1) Phase Iにて供与した車2台は協力期間終了('85)後 Ministry of Financeのものとなったため、現在センターでは使用不可。（これについて「日」側は「イ」側に対し、センターの運営に必要な機材として供与されたものが、協力期間終了後他の目的の

ために使用されていることに遺憾の意を示した。)

- (2) 「イ」側は「日」側に対し専門家の公務における車の使用についてはセンターが2台の車(うち1台はランドクルーザー), およびそれぞれにプロの運転手と専門家に対する保険を付することを約した。

この場合, 公務における車の使用とは, 専門家のセンター・住居間の通勤およびセンターの依頼によって実施する業務を遂行するために必要な移動を指す。

- (3) 専門家の私用目的の車については「イ」側は「日」側に対し1台の供与を要求した。これはあくまでプロジェクト実施に必要な機材として「日」側より「イ」側に供与される車ではあるが, 実際には専門家がその生活維持等を目的として専用を使用することとする。これについて「日」側は「イ」側にこの車にプロの運転手と専門家に対する保険を付することを要求し, 「イ」側はこれを了承した。

5. 秘書

「イ」側は「日」側に対し, 長期専門家である新里コーディネーターに秘書を1名配置することを確認した。

6. 専門家用オフィス

「イ」側は「日」側に対し, コーディネーター, および各部門ごとに1室ずつ, すなわち計5室のオフィスを用意することを説明した。コーディネーターおよびエスカレーター部門の専門家用のオフィスは本館に, 他はそれぞれの部門ある建屋の中に配置する。エスカレーター部門の専門家のオフィスはエスカレーター部門のある建屋には配置できないため「イ」側は本館にあるこの専門家用オフィス以外にエスカレーター部門内にある教師用部屋(あい部屋)にも専門家用の席を準備することを約した。

7. オフィスの設備

「イ」側は「日」側に対し, 各専門家オフィスに電話, 文房具, 本棚, カーテン, コンセント(アウトレット)を供与することを, また専門家全体に対し, パーソナルコンピューター1台を供与することを説明した。

8. 住居の必要家電

「イ」側は「日」側に対し, 専門家の私生活に最低限要する家庭電器(冷蔵庫, TV, coker)をセンターの経費負担により準備することを説明した。

9. 公務出張にかかる経費負担

「イ」側は「日」側に対し, センターの要請による公務出張については国内外問わず, センターが経費負担することを確認した。ただし, クウェートに口座を開いた, JICA 専門家チーム用公金の引き出しに伴う出張経費についてはセンターは負担しないことを確認した。

10. 専門家の休日

専門家の休日について

○「イ」側は「日」側に対し、以下の通り説明した。

○専門家の休日は

毎週金曜日 → 52日/年

祭日 → 18日/年

leave → 3日/月=36日/年（ただし、その時期については状況による）

上記の外に病気（診断書要）、海外からの家族の訪問等に伴う休暇については、事前に（可能な限り前広に）センターに諒解を求めればセンターは柔軟に対応する。

○また「イ」側は「日」側に対し、長期専門家についてはJICAの規定に基づいて実施可能であること、7月～9月には上記 leave を利用しての長期休暇をとることも可能であることを説明した。

11. 長期専門家

当初計画されていた長期専門家2名の派遣は、専門家のリクルート上の困難によりコーディネーター1名のみとする。

12. 特権、免除、利益

専門家の特権、免除、利益についてR/D II 2. 3の項目に対し「イ」側は、within the governmental hospitals を加えるよう要求した。理由として private hospitals は権限外であるからと「イ」側は説明したので「日」側はこれを了承した。

V 部門別（個別）協議内容

A. ESCALATOR部門

1. 1989年度のレビュー

(1) 機材及び資料の供与

1988年～1989年に計画され、準備された機材及び資料は総てCENTERに到着し、据え付け工事も完了している事を確認した。

- ① 機材…………… a) ESCALATOR用架台(1式)
 - b) ESCALATOR本体(2台)
 - c) ESCALATOR用予備品(1式)
 - d) ESCALATOR据え付け用工具及び材料(1式)
 - e) ESCALATOR用計測器類(1式)
 - f) ESCALATOR保守用工具(1式)
 - g) TESTING BOARD(12台)
 - h) SPECIAL CONTROL PANEL(8台)
- ② 資料…………… a) RECORD DRAWINGS(7部)
 - b) INSTRUCTION MANUALS & CATALOGUES OF TESTING BOARD, SPECIAL CONTROL PANEL AND TESTING METERS(4部)
 - c) ESCALATOR MAINTENANCE TEXT BOOK(28部)
 - d) ESCALATOR MAINTENANCE MANUAL(6部)
 - e) ESCALATOR MAINTENANCE DRAWINGS(28部)

但し、一部構造面の不備、工具・予備品の不足について「イ」側より指摘或は要請事項があり個々に協議をした。(協議内容詳細は3項に後述)

(2) C/Pの受け入れ

- ① 1988年度, 10月31日～11月25日, ESCALATOR全般の実習
MR. KHUDHER A. AL ZAIDI
- ② 1989年度, 8月23日～8月25日, ESCALATOR施設見学
MR. SHAKIR M. AL KHAFAJI
- ③ 1989年度, 8月17日～10月12日, ESCALATOR据え付け実習
MR. ALI RAOUF ALI AL ZUBEDI

MR. RASHAD MOHAMMED RIDHA ALALI

以上4名の「日」国における研修が終了したことを確認した。

(3) 専門家の派遣

① 1989年度, 10月30日~11月29日, 架台据え付け指導

船久保 貞 夫 氏 MR. SADAO FUNAKUBO

② 1989年度, 11月15日~1990年2月14日, ESCALATOR据え付け指導

服 部 松 吉 氏 MR. MATSUKICHI HATTORI

上記2名の「日」側専門家によるESCALATOR据え付け指導並びに据え付け業務が完了したことを確認した。

(4) 研修室

① 教室・実習室

PHASE-IにおけるELEVATORと共に完備されていて, 既に教育が実施されている事を確認した。

ESCALATOR実習室は, 予定通り新築されESCALATORの他MODEL, TESTING BOARDが設置されており, 関係者以外は立ち入れぬ様施錠され適切に管理されている事を確認した。

② 工具・備品室

調査団全体協議に時間を要したため, 個別調査をする時間が不足し, 実際に確認することは出来なかったが「イ」側の説明によれば適切に整備されているとのこと。

③ 専門家業務室

1989年度派遣専門家は, 「イ」側教員と共に教員室に業務机を置き業務を実施した事を確認した。

尚, 今後の専門家業務室については他部門と足並みをそろえるよう調査団共通協議事項にもり込むこととした。

(5) CURRICULUM

① 「日」側からすでにCURRICULUM案が作成され, 提示していることを確認した。

② 「イ」側における具体的なCURRICULUMは未だ作成されていない事を確認した。

③ TEXT BOOKのARABIC翻訳は未だ着手されていない事を確認した。

④ 教育項目として「イ」側よりESCALATORの検査・調整及び主要機器の取り替え要領についても盛り込みたいとの要請があり, 協議した。

(6) ESCALATOR据え付け完成検査

当該検査を調査団の目的として準備したが、時間的に実施不可能となったので外観検査と試運転の範囲にとどめる検査を実施した。

尚、据え付け工事完了時に測定した各部DATAにより良否を判断した。

(検査結果は3項に後述)

2. 1990年度計画

(1) ANNUAL WORK PLAN (A. W. P.)

MINUTES OF DISCUSSIONSに添付のA. W. P. 通りとすることを確認した。

(2) 機材及び資料

機材構造面の不備、工具・予備品・消耗品等の不足については基本的には「イ」側で対処する事にしたが、どうしても無理な場合や資料内容の改訂・補充については「日」側、「イ」側協力して善処する事を確認した。

(3) C/Pの受け入れ

- ① 1990年度「イ」側C/P, 1名, ESCALATOR全般
- ② 日程………A. W. P. 通り(1990-5-28~1990-7-27)
- ③ 氏名………MR. MOHAMMAD ABDUL QAFOOR THABET (38才, 男子)
- ④ 実習………工場・教育センター・保守現場を希望

「イ」側で上記のように予定されている事を確認した。

(4) 専門家の派遣

- ① 1990年度「日」側専門家, 1名, ESCALATOR全般
- ② 日程………A. W. P. 通り(1990-8-25~1991-1-24)
- ③ 氏名………未定

「日」側で上記のように予定している事を回答した。

(5) CURRICULUM

「イ」側の都合により教育対象者・年次等が変更されていたので既に「日」側から提供してあったCURRICULUM案並びに教育資料は一部修正の必要があり「イ」側で適切なCURRICULUMに作成し直し実施する事を確認した。

3. 今後の留意点

(1) 機材(1-(1), (6)関係事項)

① ESCALATOR 架台

- a) ESCALATOR 外側面と架台側面に間隙があり、物品の落下危険性がある。
特に # A 2 号機左側面の間隙は 410 mm もあり人の墜落が予想されるとの「イ」側の指摘があった。

「日」側も危険性(特に実習訓練の際)がある事を確認したので「イ」側に対策工事を依頼した。

「イ」側は工事施工は可能であるが材料の調達不可能であると主張した。

「日」側は同一材料でなくても良いので、「イ」側にて調達の上施工するよう依頼した。但し、# A 2 号機側面間隙対策は「日」側の援助が必要である。

- b) 架台上部(地上 4 m) STEP に安全手摺の設備があるが、そこに大きな開口部があり人の墜落が予想されるとの「イ」側指摘があった。

「日」側も危険性を確認したので「イ」側に対策工事を依頼した。

「イ」側は前項と同様材料調達不可能と主張したが、「イ」側で施工するよう依頼した。

② ESCALATOR 本体

- a) # A 1 号機外側板の取り付けなし

外側板の取り付けがないので折角の機器が見劣りすると「イ」側から指摘があった。

「日」側は、訓練機であり機能上は不必要と主張したが、外観面並びにゴム手摺侵入部の危険性があるとして「イ」側は外側板取り付けを要請した。

「日」側は外側板は供与仕様以外のものであるから「イ」側にて取り付ける様依頼したが、「イ」側は適切な材料調達並びに加工不可能につき「日」側の施工を要請した。

「日」側は、後述 MOON DOLLY 用の補強も必要であり、併せて対策について検討することにした。

- b) ゴム手摺侵入部側面 COVER 取り付け

A 1・A 2 号機上下右左共に開口部があり危険との「イ」側指摘があった。

協議経過は前 a) 項に同じ。

- c) 工具・予備品の追加

(イ) # A 1 号機 DRIVE UNIT 着脱用機器(MOON DOLLY)

当該機器がないため調整・取り替え実習は不可能との「イ」側指摘があった。

「日」側は「イ」側にCRANEありとの情報により手配をしなかった経緯を説明したが、ESCALATOR設置後の現在はCRANEの運び込みは不可能の状態であり「日」側にて可否を検討する事にした。

尚、MOON DOLLY使用の場合には欄干柱の補強が必要である事を確認した。

(ロ) D・C電源(6台)

「イ」側の要請をいれて「日」側で既に追加準備をした旨を説明し「イ」側は了解した。

(ハ) 消耗品の追加

「イ」側は次の消耗品の手配を要請した。

- ・外側GLASS板
- ・STEP下蛍光灯(40本)
- ・COMB LIGHT蛍光灯(12本)
- ・制御盤SIGNAL LAMP(4個)

「日」側は油類・ウエス・電池類と共に消耗品は必要に応じて「イ」側にて調達購入するべきであるとの見解を示した。

「イ」側は将来は「イ」側で調達するが、初期予備品として必要なものは他にも供与されているので当該品も同様の扱いとしてほしいと要請した。

d) #A1号機右側ゴム手摺の調整

ゴム手摺が蛇行しており、既に若干の摩耗が認められたので「イ」側にて調整するよう要請した。「イ」側にて調整不能の場合は、日常の試運転を除き1990年度「日」側専門家の派遣まで運転を中止するよう要請した。

③ TESTING BOARD, SPECIAL CONTROL PANELの予備品追加

「イ」側は予備品LISTを提出し予備品の供与を要請した。

「日」側は正常な使用状態における若干の予備品は既に供与しておりそれ以外に予備品必要の事態が発生した場合には、多台数の設置があるので部品は流用する様主張した。

「イ」側は1990年度教育計画では訓練生の配置が全面に及び予備機はなく部品の流用は不可能であり、かさねて予備品の充実を要請した。

(2) 追加機材の活用

全体協議の中で「日」側より追加機材についての説明があり、その機材の具体的な活用について協議した。

① WHITE BOARD

「イ」側より4 SETSの供与を望む強い要請があった。

1989年5月実施調査団は4 SETSの検討を約したが、これが3 SETSの供与となった理由説明を求め、既に準備された教室数・実習室の状態から是非とも4 SETSの供与がほしいとの要請があった。

「日」側は他部門との融通を図るよう説得したが、他部門は別建物であり実際に融通は困難である事を「イ」側は主張した。

② OVER HEAD PROJECTOR

「イ」側よりMANUAL, TEXT BOOK, 図面を活用したOHP資料の作成計画について説明があった。但しこれは別にCOPY機の供与が前提でありCOPY機なくしては不可能であるため協議を保留した。

③ SLIDE PROJECTOR

「イ」側よりSLIDE 資料作成計画について説明があった。

「日」側はPROJECTOR方式, FILM形式が不明であり具体的な協議は不可能として保留した。

④ VIDEO TAPE, SLIDE FILM

「イ」側よりC/Pが日本研修時に見たTAPE, FILMを英語・日本語のままが良いので供与してほしいと要請した。

「日」側はVCRの方式が合致するものがあれば機関の詮議を得て可能な限り供与努力する事を回示した。

(3) 「日」側専門家による供与機材の使用

供与機材の管理は安全取扱も含み「イ」側の責任である事を確認したが、「日」側専門家が業務に必要とする機材については随時使用出来るものである事を確認した。

(4) 停電による機器損傷の責任

CENTER内でしばしば停電になる事が予想された。

「日」側供与機材は停電による防備(単相・逆相防止等)は施していないので充分な注意をするよう要請した。

以上

B. パーソナルコンピューター部門

1. パーソナルコンピューター (P / C)

懸案のパソコン (16 Bit 及び 32 Bit) 設置場所に関しては「イ」側も決定に苦慮し、2 転 3 転したが最終的に Electric Dep. Building に決定した。現在までに至る経緯は下記の通り

- 88 年 7 月……派遣調査団との打合せではセンター本館に隣接する Electric Dep. Building と決定した。(16 Bit / 32 Bit 実習室 2, 教室 2, 計 4 室の Layout 決定)
- 89 年 4 月……派遣調査団打合せで「イ」側より前回 (88 年 7 月) の決定を変更しセンター敷地内の独立棟 2 階 (3 階相当) に設置したい旨の要請が行われた。
- 89 年 8 月…… P / C 部門責任者 Mr. Raad Abdul A. Al-Kas, C/P として来日の際 Electric Dep. Building に再度変更してほしい旨申し入れがあった。
- 90 年 2 月……今回の調査団に対して当初は独立棟に設置したい意向も窺われたが、P / C 設置の物理的条件、周囲環境条件、また時間的な余裕があまりないこと等を考慮した結果、最終的に Electric Dep. Building に決定され、この結果は Minutes にも明記されることになった。
添付資料 / 参照。

2. P / C Room / 教室の Layout

M/M/D-6 に基づき Electric Dep. Building の UPS 設置場所、16 Bit / 32 Bit P / C 実習室及び 2 教室の具体的な Layout は添付資料 3 の通り。

- (1) UPS 装置までの A C 入力 (35.2 KVA) ケーブル取付作業及びメインブレーカの準備は「イ」側で 4 月末迄に完了させる。
- (2) UPS 装置から 16 Bit / 32 Bit P / C 実習室へのケーブルディストリビューション以降の作業は「日」側で行う。
- (3) 16 Bit P / C 実習室の床上工事に伴い、機材の搬入、解梱及びその他工事に伴い「イ」側の作業員の手配依頼を行った。
- (4) 16 Bit / 32 Bit P / C 実習室の各 25 台 (Instructor 分 1 台を含む) の Layout を添付資料 4.5 の通り決定した。
- (5) UPS 設置ルームとクラスルームとのパーティションは「イ」側で実施する。
- (6) 床上工事及び P / C 設置に伴い搬入機材の保管、確保を「イ」側に依頼した。

- (7) 床上工事及びP/C設置に伴い16Bit/32Bit P/C設置予定の(2)部屋の実測を行った。

今後の留意点

- ① UPSまでの工事は「イ」側で実施するが、AC入力ケーブルは「イ」側で準備するためケーブル直径φの問合せを受けている。
- ② ケーブル工事に伴い圧着端子は現地調達が困難のため「日」側で準備する要あり。

3. 短期専門家派遣計画およびC/Pの受入れ計画

P/C 部門のAWP (Annual Work Plan) 及び「Two Years Work Plan for October 1989 - September 1991」に関しては提案通り「イ」側と合意を得た。M/MのAnnex 2 参照。

(1) C/P受入れ計画

受入期間 '90.5.28 - 7.27まで1名を受入れる。

(Mrs. Intesar Alwan パーソナルコンピューター部門インストラクター)

(2) 短期専門家の派遣計画

① Technical Assistance

'90.8.25 - '91.2.24 6ヶ月間1名を派遣

(4部門とも同一期間 但しエスカレータ部門は1/24までの5ヶ月間)

② Installment of Equipment 関係

UPS装置工事関係1名、床上げ工事関係2名、計3名を約1ヶ月間機材が「イ」側に到着したことを確認のうえ派遣する。

引続き16Bit P/C Hardware 調整の目的で1名を1ヶ月間また Technical Assistance として1名を約半ヶ月間派遣する。合計5名

③ 32Bit P/C関連の専門家派遣計画に関しては今回は検討の対象とならなかった。

今後の留意点

P/C 関係機材の現地到着確認後工事関係者の派遣日程が決定することになるので確認情報の早期入手に留意が必要。

4. その他

- ① '89.4 M/DでAdditional Requestとなっていた「Five sets of Analyzer with monitor」に関してはP/C受講生の技術レベルを勘案しAnalyzer を必要としないこと。また予算に限度があることを理由に供与の対象外とした。

② 89.4 M/DでベンディングとなっていたP/C関係Additional Equipmentに関してはCommon Equipmentとして下記の通り供与されることになり、Minutesにも記載された(Annex 3, 他3部門についてもほぼ同様)。

- Air Conditioner 4 (実習室2, 教室2の各部屋に1台宛)
(別にP/C Japanese Expert用として1台)
- OHP + Screen 4 (実習室2, 教室2の各部屋に1台宛)
- OHP Film 800
- OHP Pen (3 colors) 12 sets
- White Board 4 (")
- " Pen (

Red
Blue

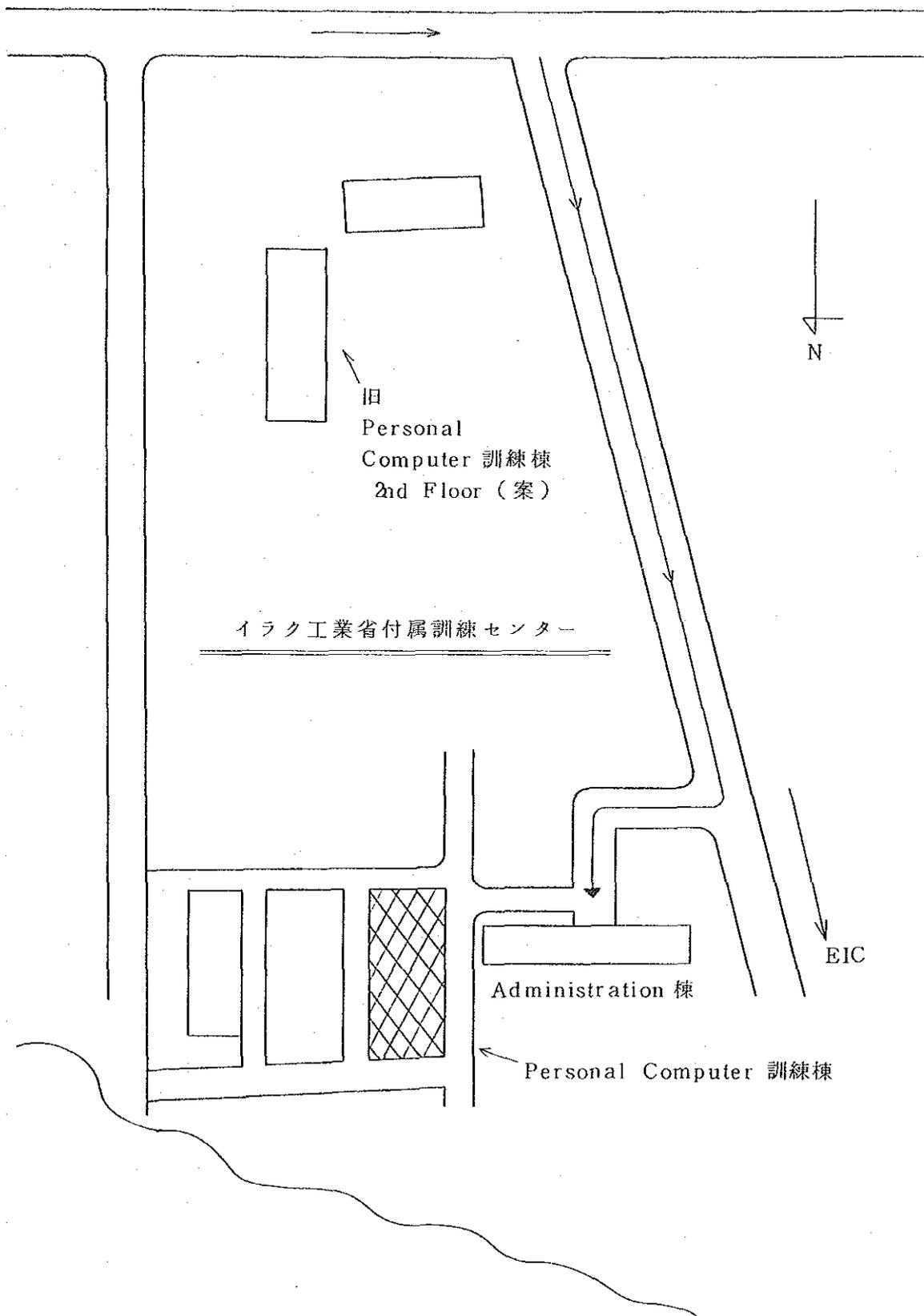
) 40 sets
- " Pen (Black) 200
- Desk for P/C 30
- Logic Circuit 30

留意点

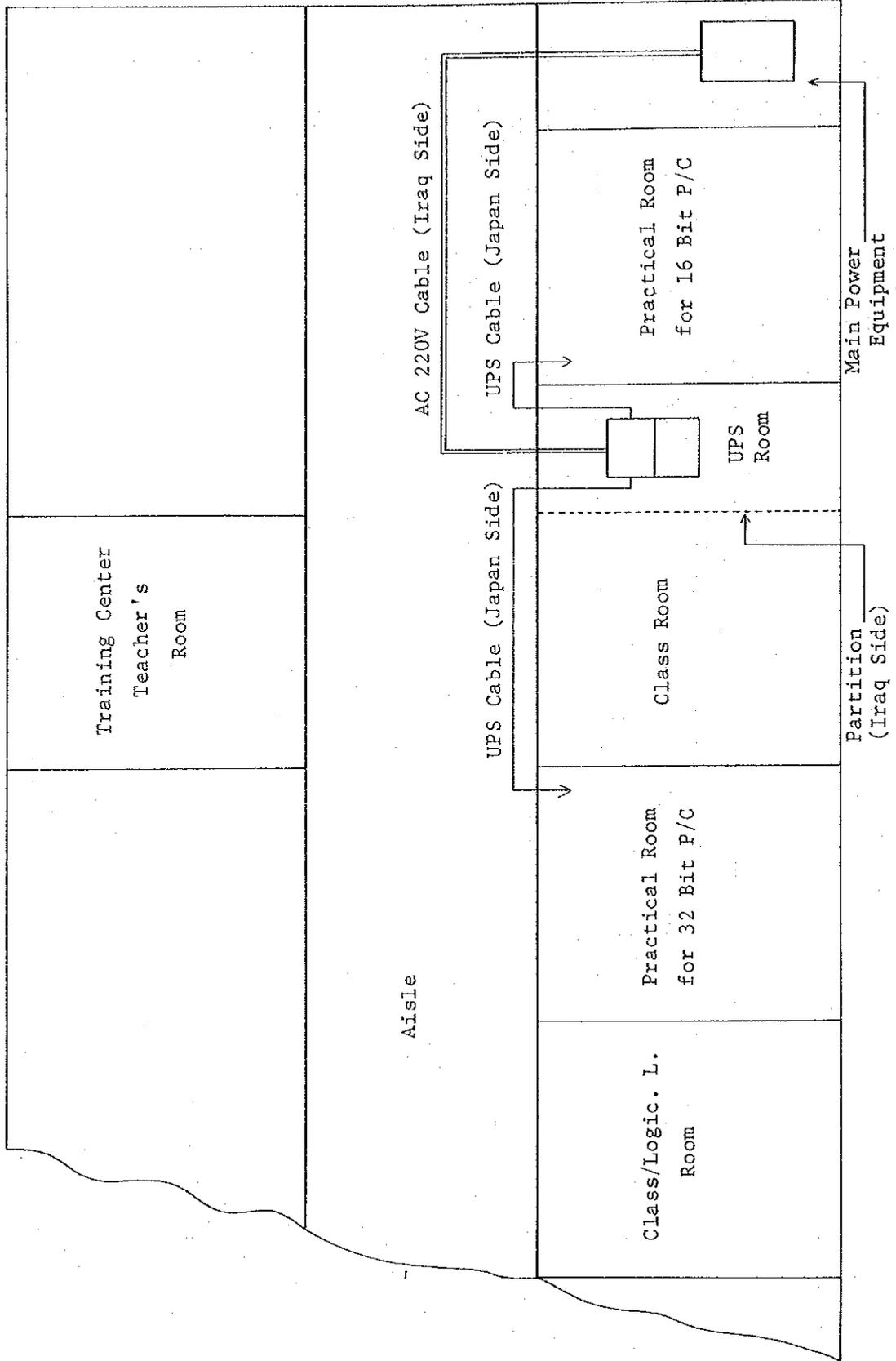
Logic CircuitはMinutes Listに明記されていないが、Common EquipmentとしてP/C Courseに供与される。

Site Plan

← Baghdad 市内へ

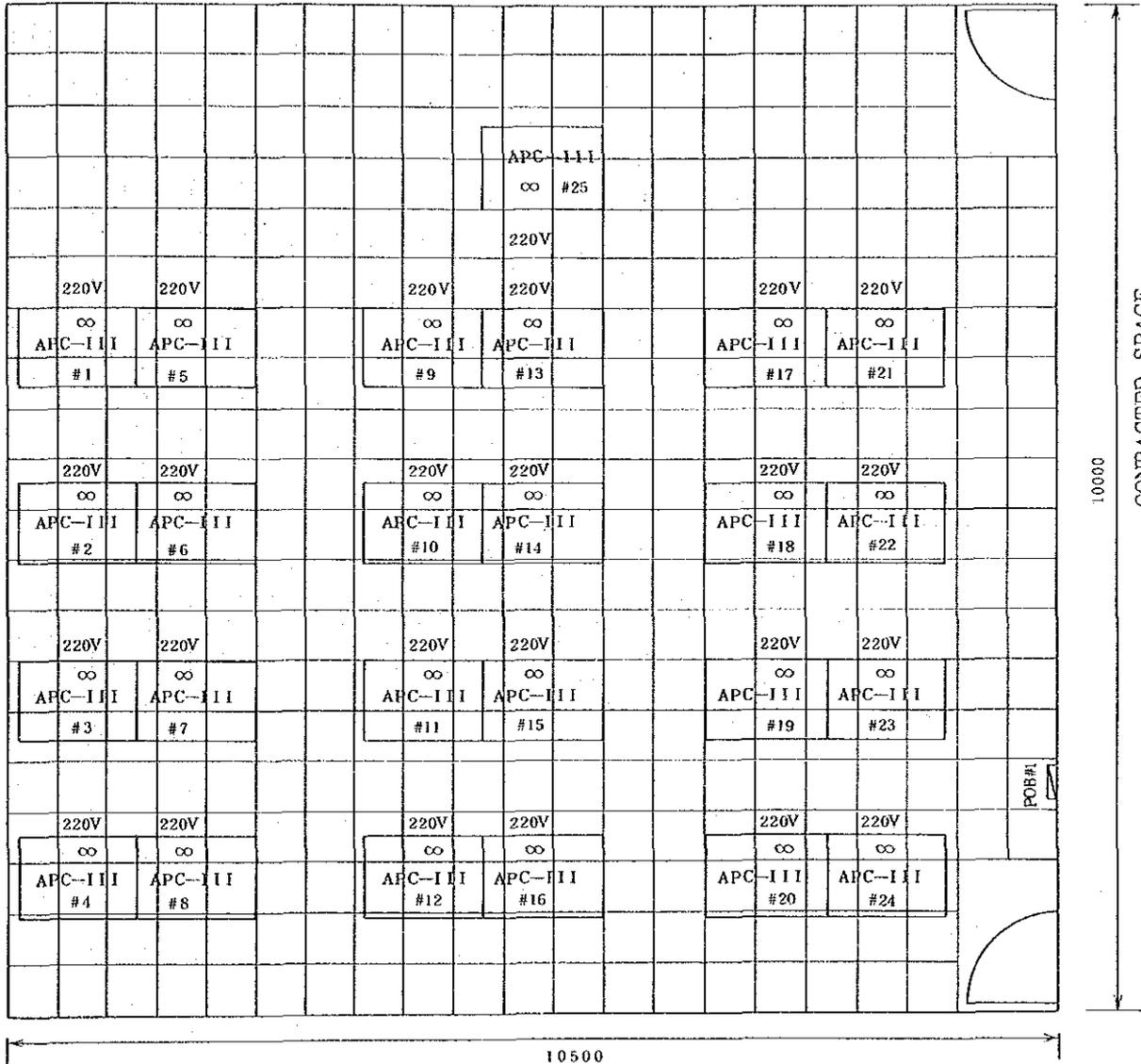


Layout Plan of Personal Computer
(Electric Dep. Building)

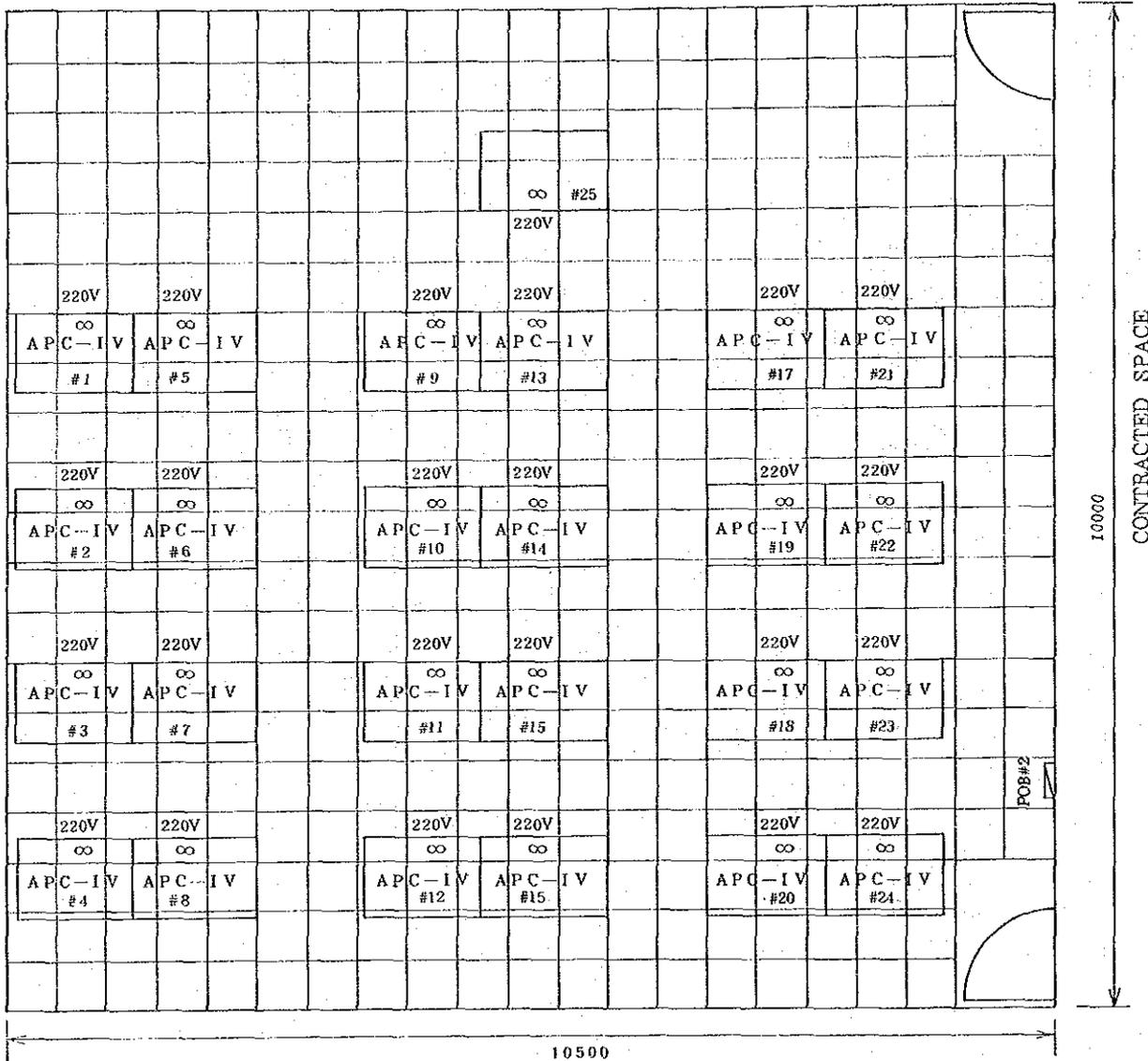


Entrance
←

LAYOUT PLAN OF PRACTICAL ROOM
FOR 16BIT P/C



LAYOUT PLAN OF PRACTICAL ROOM
FOR 32BIT P/C



C. Factory Automatic Control Course (工場自動制御部門)

1. 1989年度レビュー

(1) 機材供与

年	1 9 9 0				
	Feb	Mar	Apr	May	Jun
Provision of Equipment	shipping 2/16 YOKOHAMA	3/22 Aqaba	4/5 Baqhdad		
Installation of Equipment			(T・TANABE)		

・上記日程にて、供与機材は一括発送済み。

センターへは4月上旬に搬入される予定であることを説明した。

(2) C/Pのトレーニング結果について

・MR SAAD MOHAMED

・期間 8/15～11/10 3ヶ月間実施

結果は双方とも目的を達した事を確認した。

(3) 生徒(一学年生)

・現在、当部門の一学年生は不在であることが判明した。

(理由と今後の計画は、M/Mに記載内容通りのため省略)

(4) 研修室の工事及びレイアウト

・研修室(教室, 実習室, 工作室)の照明工事, 実習用電源工事については、ほぼ完成済み。残工事は、機材供与が到着後に施工される予定(供与品を使用するため、現在は工事待ちの状態である。)

空気配管工事も上記同様に供与品待ちである。

・レイアウトについては、既に打合せ、決定通りで変更無し。

(5) テキストブックの作成

・生徒用に「制御基礎理論」がアラビックにて完成されている。順次計画的に取りかかっているとの由。

(5) Training of IRAQI C/P Japan

「イ」側よりトレーニング期間を「日」側案の2ヶ月間を3ヶ月間にして欲しいとの要求があった。

しかし、今年のC/Pは teacher ではなく technician であり、3ヶ月の必要はない旨説明した。これに対し「イ」側は「日」側案に同意した。

(6) 機材供与の追加要求

- ・実習用教材として TEST BOARD を「イ」側で作成したいので、新たに部品類を教点供与して欲しいとの申し出があった。

本体は、金もかかることでもあるし、日本に帰国後内容を検討し、回答する事とした。

(7) その他

- ・「イ」側より一年生の問題以外、とりたてて計画の変更や、申し出も無し。
- ・「日」側よりも既に今日まで協議して準備して来ている事の変更もなく、全体的に計画は、順調に推移していると思われる。

D. 工場配線及び照明部門

1. 1989年度のレビュー

(1) 機材供与

① 「日」国より3船に分割して「イ」国に発送された機材の内、既にセンターに到着している第2船迄の供与機材の保管状況を調査し、特に問題のない事を確認した。

② 第3船にて「イ」国へ発送した供与機材及び第1船にて発送した供与機材の中の求償材については、Apr - '90 にセンターに到着する旨説明し、到着予定の機材の図面を参考用に手渡し、

a) 到着後の整理、確認を指示した。

b) 据え付け用機器については、専門家（機材据付指導員）が到着する迄、第2船でセンターに到着している据え付け用機器と同様に保管しておく旨指示した。

c) 据え付け機器への電源供給用ケーブル布設（屋外のみ）を専門家到着迄に完了しておく旨指示した。

上記 a), b), c) 項目について「イ」側は了承した。

③ 「Generator House」は、現在基礎工事を施行しており、その建設及び「Model Room」への機器据付の為の搬入口の設置は専門家到着迄（Apr - '90 を目処）に完成しておく旨指示した。又、搬入口については将来を考慮し扉にした方が良く旨説明した。これに対し、「イ」側は了承した。

- ④ 供与機材の据え付けに関し、「イ」側が用意すべき建機、工具及び人員について「Construction & Manpower Mobilization Schedule」のRev.版を渡し、最度説明及び確認を行った。これに対し、「イ」側は了承した。
- ⑤ 湿式コピー機（図面用）については、新里業務調整員がセンターに到着後、「イ」国に於いてコピー機のMaintenanceが可能か否か調査の上、供与を検討する旨説明した。これに対し、イラク側は了承した。
- ⑥ 「イ」側より機材供与の追加要求があったが、「日」側は機材供与は第3船にて発送完了であり、必要な機材については、センターにて準備すべき旨説明した。これに対し、「イ」側はセンターに依る調達を検討することとした。
- ⑦ 「イ」側よりFire Alarm System 及び Intercom System について参考用に配線及び結線図がほしい旨依頼があった。これに対し、「日」側は参考用として上記の図面を作成し「イ」側に送付することとした。

(2) C/P受入れ

- ① 1989年度C/Pの研修を、89. 8月10日より、89. 10月15日の期間でPractical Lesson を主にして完了した。
特に問題はなし。
- ② 「イ」側より1990年度のC/Pについては、女性のInstructor が選考されている旨、説明があった。
これに対し、「日」側は、「Factory Wiring and Lighting Course」に於いては環境、設備その他諸条件の上でPractical Lesson を行なうには女性は不適當である旨を強く説明し、男性C/Pを選考する様依頼した。
「イ」側は検討することとした。

③ C/P受入れ期間

- | | | |
|--------------|-----------------------------|----|
| a) 1990年度 予定 | 28-May - '90 ~ 27-Jul - '90 | 1名 |
| b) 1991年度 未定 | | 1名 |
| c) 1992年度 未定 | | 1名 |

(3) 専門家派遣

- ① 1989年度専門家派遣（機材据付指導員）については、据付機材が「イ」国に未到着の為1990年度に変更。
- ② 当該専門家派遣（機材据付指導）時期は、第3船にて「イ」国へ発送の供与機材がセンター到着後、Apr - '90 ~ May - '90の予定で派遣する旨説明した。
これに対し「イ」側は了承した。

③ 専門家派遣期間

- a) 1990年度 予定 中旬 - Apr - '90 ~ 中旬 - May - '90 2名
機材据付指導員 1名
技術指導員 1名
- " " 25 - Aug - '90 ~ 24 - Feb - '91 1名
- b) 1991年度 未定 1名
- c) 1992年度 未定 1名

(4) 研修室

- ① 1989年度の生徒数は現在32名であり、2nd gradeとして教育しており、3年間コースを2年間に短縮した理由については「Ministry of Industry」の要請であり、1989年度の生徒に限ってであると説明があった。

これに対して「日」側は、

- a) 感電事故防止等に対する電気取り扱い教育を充分行なうこと。
b) 初年度はLectureを主体に行なうこと。

を提示した。

「イ」側は、a), b)項について了承した。

- ② Lecture Room及びDrafting Roomは机、製図版がきちんと配列され講義が行なわれていた。
- ③ Training Roomは「日」側より渡した配置図に合せて供与機材が仮配置されていた。

(5) Curriculum

- ① 1989年度来日のC/Pに「日」側より渡したCurriculumを参考に「イ」側で計画したCurriculumに沿って行なわれている。
- ② 参考用英文Text(生徒用アラビック版の原本)は第3船にて「イ」側に発送する旨説明した。「イ」側は了承した。

- ③ Teacher及びInstructorのリクルート及び配置については、'90年2月現在、下記5名である旨、「イ」側より説明があった。

Mr. Akram Al Roumi	(男性 Teacher)
Mr. Ibrahim Hadi Khdir	(" ")
Miss Eiman Hassan Ziara	(女性 Instructor)
Miss Najlaa Sahp	(" ")
Mr. Shaker Khsro Akbar	(男性 ")

結果的に男性Instructor 1名が増員された。

2. 1990年度計画

(1) 機材供与

1989年度の第3船にて「イ」国への供与機材の発送は完了した。

(2) C/P受入れ(添付AW9参照)

28-May-'90~27-Jul-'90の期間でC/P1名の受入れを予定。

(3) 専門家派遣(添付AWP参照)

① M-Apr-'90~M-May-'90の予定で機材据付指導員1名及び技術指導員1名の専門家派遣を計画。

② 25-Aug-'90~24-Feb-'91の予定で技術指導員1名の専門家派遣を計画

3. 今後の留意点

(1)-① 供与機材がProject 進行に伴い「イ」側に依って有効且つ無駄なく使用されるか。

(1)-② 追加要求品に対するセンター独自の調達

(1)-③ Project 期間終了後に於いて、教材、予備品及び消耗品のセンターに依る調達ルート確保

(3)-① 専門家が「イ」国滞在中に於ける、住居、食糧、送金及び通勤に対しての安全等の確保

(全てについて物価高で生活維持が非常に難しい)

(3)-② 専門家に対し、「イ」側に依る供与機材の貸し出し

(5)-① 「電気及び電気品」に対する安全な取り扱い方法の教育

(5)-② 「イ」側に依る生徒用アラビック版Textの確立

以上

VI バグダッド市内ホテル調査

(1990-2-24, 9:30~11:30調査)

(1) SHAHEEN HOTEL

- センターの主催で夕食会が開催されたホテル。
- 何れの部屋も暗くて古い。

夜間は特別のデスク・ランプがなければ読み書きができぬであろう。

- 各部屋キッチン付きであるが使用機器は別に借りなければならぬ。
- 場所は市中心にあり比較的便利。
- 価格

シングル, 1人使用.....	25 I D
	サービス料10%付加
	要求によって朝食付
ツインルーム, 2人使用.....	30 I D
	サービス料10%付加
ダブル・ルーム, 4ベッド, 2人使用.....	45 I D
	サービス料10%付加
ファミリー.....	50 I D
	サービス料10%付加

- カードの使用不可

◎ 場所並びに価格面からは是であるが、部屋の環境面、諸設備面では不可である。

(2) AL HAMRA SUITE HOTEL

- HAMRA = グラナダ

建物・環境・周辺景観はグラナダの感あり

- バビロンホテル近くで景観良好

部屋は夫々明るく清潔度はシャヒンより高い

- プール・テニスコート・レストラン(中華・ベトナム・ヨーロッパ・ターキッシュ)がある。
- 近くに日用品ストアあり
- 部屋にTV, 冷蔵庫, キッチン, ナベ, カマ, ポット, 皿, ナイフ, フォーク, 灰皿に到るまで殆どの機材が備わっている。

但し、総てHAMRAのマークが入って居り、破損した場合は想像外の弁償が必要となる。

- 非常口等の設備が見られず緊急事態に対する考え方は出来ていない。

- カタログ入手

STUDIO.....10%税込44ID

1人追加 8ID

JUNIOR SUITE.....62~66ID

SENIOR SUITE.....77ID

PENT-HOUSE.....88~165ID

- 支払にアメックス, ダイナースは使用可能

- レストラン

スープ.....2.5ID

チキン料理.....3~7ID

中華ライス, ノードル.....2~3.15ID

ポーク, ビーフ.....5.5~12ID

- ◎ シャヒンとの比較では価格が若干上廻るが総合的に、此のHOTELが良い。



AL HAMRA SUITEHOTEL



BAGHDAD-IRAQ

★ ★ ★ ★ ★

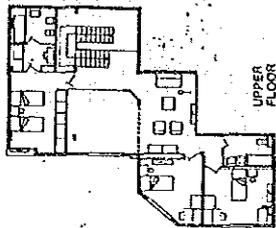
AL HAMRA SUITE HOTEL

WILL MAKE UP YOUR MIND FOR YOU

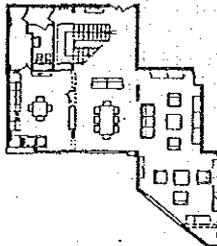
HAY AL JAMIAA - AL JADRIAH
 DISTRICT 913 - LANE 10
 P.O. Box: Bid. 1 10046 KARRADAH
 Bid. 2 2017 ALWITA
 Tel. 7766982
 Telex: Bid. 1 213567 HAMRA IK
 Bid. 2 213536 HAMRA IK

- 96 LUXURIOUS RESIDENTIAL SUITES
- 9 DELUXE PENT-HOUSES
- RESTAURANT
- CAFETERIA
- SWISS PASTRY SHOP
- 2 LAUNDRIES
- 2 SELF-SERVICE LAUNDERETTE ROOMS
- SWIMMING POOL
- 3 PARKING AREAS
- LOCATION: JADRIAH, BAGHDAD

AL HAMRA HOTELS Co. Ltd.

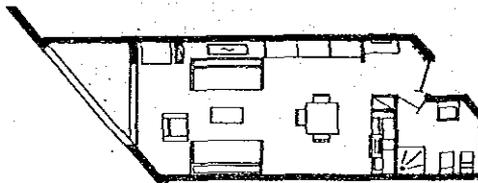


UPPER FLOOR

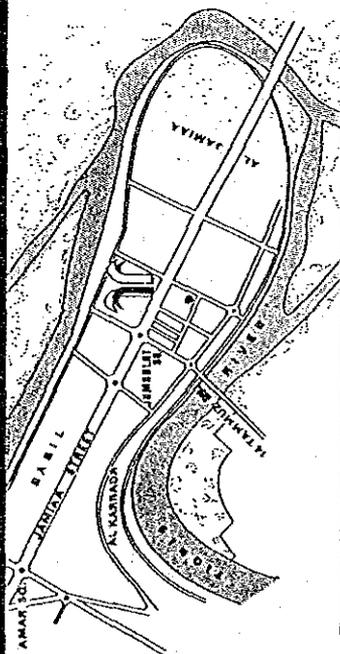


ENTRY FLOOR

PRESIDENTIAL PENT-HOUSE



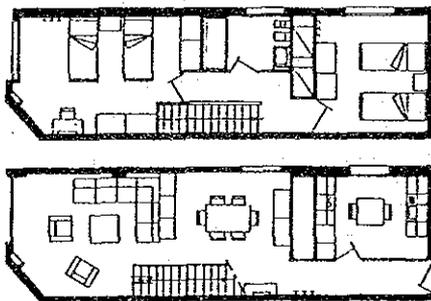
STUDIO



AL HAMRA SUITE HOTEL

LUXURY LIVING IN BEAUTIFUL JADRIAH
 P.O. Box: Bid. 1 10046 KARRADAH
 Bid. 2 2017 ALWITA

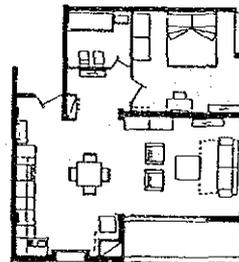
Tel. 7766882
 Telex: Bid. 1 213567 HAMRA IK
 Bid. 2 213536 HAMRA IK



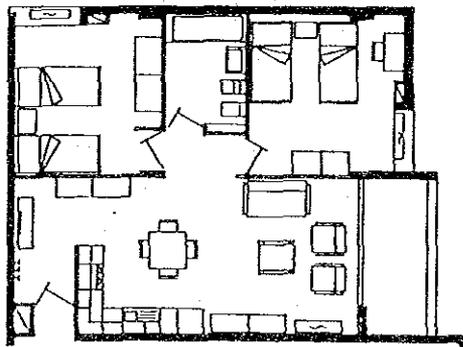
ENTRY FLOOR

UPPER FLOOR

PENT-HOUSE



JUNIOR SUITE



SENIOR SUITE

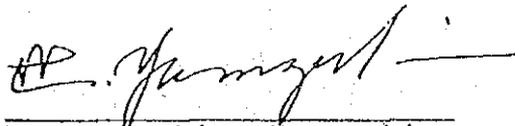
VII M / M

MINUTES OF MEETING
BETWEEN
THE JAPANESE TECHNICAL GUIDANCE TEAM
AND
THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF IRAQ TEAM
ON
THE TECHNICAL COOPERATION FOR THE PROJECT
ON
ELECTRICAL AND ELECTRONIC INDUSTRIES TRAINING CENTER (PHASE II)

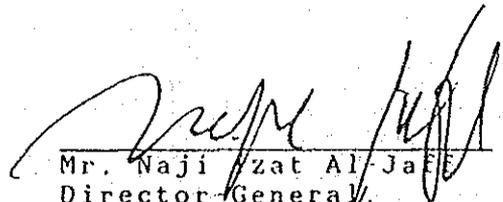
The Japanese Technical Guidance Team (Japanese Team) organized by the Japan International Cooperation Agency (JICA) and headed by Mr. Muneshige Yamazaki, Managing Director, Mining and Industrial Development Cooperation Department, JICA, visited the Republic of Iraq from February 17 to February 28, 1990, for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the Project on Electrical and Electronic Industries Training Center (EEITC).

As a result of the discussions, both parties reached understandings concerning the matters referred to in the document attached herewith.

Baghdad, February 26, 1990



Mr. Muneshige Yamazaki
Leader,
Technical Guidance Team,
Japan International Cooperation
Agency (JICA)



Mr. Najizat Al-Jaff
Director General,
Administrative Department,
Ministry of Industry,
Republic of Iraq

PARTICIPANTS FROM THE JAPANESE TEAM

<u>Name</u>	<u>Designation</u>
1. Muneshige Yamazaki (Leader)	Managing Director, Department of Mining and Industrial Development Cooperation, Japan International Cooperation Agency (JICA)
2. Naotake Fujishiro (Member--Technical Cooperation Planning)	Technical Official, Technical Cooperation Division, International Trade Policy Bureau, Ministry of International Trade and Industry (MITI)
3. Mitsunori Nakano (Member--Escalator)	Senior Technical Executive, Ryoden Service Co., Ltd.
4. Toshihiro Kamishima (Member--Personal Computer)	Senior Program Manager, International Education and Training Center, NEC Corporation
5. Tadashi Shimizu (Member--Factory Automatic Control)	Director, Sales Department, Yamatake Engineering Co., Ltd.
6. Toshimitsu Fujii (Member--Factory Lighting and Wiring)	Electrical Engineer, Construction Department, Showa Denki Kogyo Co., Ltd.
7. Naoya Kuwahara (Coordinator)	Project Officer, Department of Mining and Industrial Development Cooperation, Japan International Cooperation Agency (JICA)

Ya

Mr. K.

PARTICIPANTS FROM THE IRAQI TEAM

<u>Name</u>	<u>Designation</u>
Electrical and Electronic Industries Training Center (EEITC)	
1. Sakar Al-Janabi	Director General
2. Hikmat KH. Hayder	Director, Planning Department
3. Adel Abbood	Chief, Refrigeration and Air Conditioning Department
4. Raad Abdul Ahad Al-Kas	Chief, Personal Computer Department
5. Akram C. Al-Roumi	Chief, Factory Electric Wiring and Lighting
6. Ali Ra'ouf Ali	Chief, Elevator and Escalator Department
7. Amany M. Hana (Mrs.)	Chief, Factory Process Control Department
8. Sabah Hamed	Chief, Electronic Department

Ya

Amy Hana

A. Administration of the Project

1. Change of the Course Schedule

The Government of the Republic of Iraq Team on EEITC (Iraqi Team) explained that the following change has been made on the course schedule of the Center.

(1) The course schedule which was planned to be implemented on the three-year's basis was replaced with two-year's basis only for the students starting their course schedule on October 1989.

(2) The Iraqi Team mentioned that this change has been implemented by the order of the Ministry of Industry as a countermeasure to meet the demand of the manpower in the field of electric and electronic industries in the Republic of Iraq.

(3) Accordingly, the curriculum for the professional education which was scheduled to be implemented in the second and third year's grade of the three-year's basis education has already started to be implemented in the first year of the two-year's basis education as well as the basic education which was planned to be implemented on the first year of the three-year's basis education.

(4) This change has been made by concentrating the curriculum schedule without changing the quality and quantity of the curriculum of the original schedule.

(5) With regards to the Factory Automatic Control Course, course schedule will start October 1990 instead of October 1989.

(6) The Iraqi Team explained that the number of the students in the respective course as of February 26, 1990 is as follows.

Escalator course	31 students
Personal Computer course	34 students
Factory Automatic Control course (Expected to become 30 Students on October 1990)	
Factory Lighting and Electrical Wiring Course	32 students

Japanese Team noted that this change of the course schedule is acceptable given that the Iraqi counterpart personnel bear all the responsibilities in fulfilling the following conditions.

a. Iraqi counterpart personnel will provide the students with the education on safety at the early stage of the first year of the course schedule, especially in operation method for escalator and handling of electricity for the Escalator course and handling of electricity for the Factory Lighting and Electrical Wiring course. Furthermore Iraqi counterpart personnel will not give practice-type education to the students but only lecture-type education for these two courses for the

ya

One of

first year of the course schedule.

b. At the end of August 1990 when the Japanese experts for the technical guidance are scheduled to be dispatched, the students for all the courses including Factory Automatic Control course will complete all the curriculum for the basic education which was scheduled to be implemented at the first year of the three-year's basis education.

c. Iraqi Team will secure the number of the students in the respective course as scheduled originally.

d. In order to avoid the misunderstanding in communication between the both Teams, the terms related to the grade for the two-year's basis education are defined as follows.

For Factory Automatic Control course,

The students starting their course schedule on October 1990
= second year's grade

For the other three courses

The students starting their course schedule on October 1989
= second year's grade

B. Annual Work Plan for fiscal 1990 and the Two Years Work Plan for October 1989-September 1991

The both Teams jointly formulated the Annual Work Plan for fiscal 1990 and the Two Years Work Plan for October 1989-September 1991 as shown in Annex 1 and Annex 2.

C. Dispatch of the Japanese Experts

(1) The Role of the Japanese Experts

The both Teams confirmed that the role of the Japanese Experts is to give technical advice to the Iraqi counterpart personnel and not to the students.

(2) In case of Accident towards Students

Both Teams agreed that Japanese side will bear no responsibilities in case that the students may inflict any accident during the practice session of the training.

Ya

[Handwritten signature]

(3) Accomodation

Iraqi Team explained that it will cooperate Japanese experts in

a. providing Japanese experts with adequate informations/advices on their accomodation

b. negotiating owners of the accomodation for the contract and others

The Japanese Team noted the extremely expensive accomodation charge in the Republic of Iraq and requested that the Iraqi side should take necessary measures to provide at its own expense suitably furnished accomodations for the Japanese experts and their families as shown in V.1(5) of the Record of Discussions.

To the request of the Japanese Team, the Iraqi side offered cooperation towards the Japanese experts to minimize the economic burden arising from the expensive accomodation charge in the Republic of Iraq. The Iraqi side suggested, as one example of the feasible options, that the Japanese experts pay certain fixed charge (for example US\$50/night) by USS to EEITC and the balance between the charge which the Japanese experts pay and the accomodation charge is payed by the Ministry of the Industry. Japanese experts can choose the suitable accomodation to stay by themselves. After having survey on the condition of life in Bagdhad and so on, the coordinator of the Project will discuss it with Iraqi side and make a decision on the concrete arrangement for the cooperation by the Iraqi side.

(4) Transportation

The Japanese Team requested that the Iraqi side should take necessary measures to provide at its own expense transportation facilities and travel allowance for the official travel of the Japanese experts within the Republic of Iraq as shown in the V.1(3) of the Record of Discussions signed on March 30, 1988.

The Iraqi Team explained that it will provide Japanese experts with two cars for the official use (for commutation between the Center and their accomodations and others) with professional drivers and insurance insuring Japanese experts' life and health.

The Iraqi Team requested that the Japanese Team to provide the Project to supply one car which could be useful to the private purpose of the Japanese experts and for which Iraqi Team could hire one professional driver and apply insurance insuring Japanese experts' life and health.

Ya

my [Signature]

(5) Secretary

The Iraqi Team confirmed that it will secure one secretary for the coordinator.

(6) Office

The Iraqi Team explained that it will prepare totally five independent rooms for the Japanese experts.

Iraqi Team mentioned as follows. Two rooms in the main building is available for the coordinator and the Japanese expert for Personal Computer course respectively. The experts for other three courses have their room in the building of their respective department. The Japanese expert for the Personal Computer course, whose independent room is not placed in the building of his department, can have his own desk in the teachers' room in the building of his department in addition to his independent room in the main building.

(7) Facilities for the Japanese's Experts' office

The Iraqi team explained that it will provide at its own expense each office for the Japanese experts with a telephone, stationaries, bookshelves, curtains, outlets and provide one of the Japanese experts with one personal computer.

(8) Electrical goods for the accomodation of the Japanese Experts

The Iraqi Team explained that it will provide at its own expense electrical goods required at least to support their private life such as refrigiator, TV, cooker and others.

(9) The Expense for the Official Trip

The Iraqi Team explained that it will pay the expense for the official trip by the Japanese experts in case it is conducted by the request of the Director of EEITC.

(10) Days Off for the Japanese Experts

The Iraqi Team mentioned that the Japanese experts may flexibly have days off in addition to the days off in accordance with the regulations in force in the center in case of specific occasion such as Japanese experts having illness, visitors from other countries and others if informed in advance to the Director of EEITC.

Yfa

Amey ref

(11) Dispatch of One Long-term Expert

The both teams agreed that the coordinator will be dispatched as a long-term expert from February 28, 1990 to February 27, 1992 (including the departure date from and the arrival date in Japan) while a chief advisor will not be dispatched due to the difficulty of its recruitment.

(12) The Privileges, Exemptions and Benefits

The both Teams reconfirmed that the Japanese experts and their families will be granted in the Republic of Iraq the privileges, exemptions and benefits as listed in the below, and also will be granted the privileges, exemptions and benefits no less favourable than those accorded to experts of third countries working in the Republic of Iraq as shown in the II.2. of the Record of Discussions signed on March 30, 1988.

1. Exemptions from income taxes and charges of any kind imposed on or in connection with the living allowances remitted from abroad.
2. Exemptions from import and export duties and any other charges in respect of personal and household effects, including one motor vehicle, air-conditioning, one refrigerator per family, which may be brought into the Republic of Iraq from abroad.
3. Free medical services and facilities to the Japanese experts and their families, within the Governmental hospitals.
4. Issuance of identification cards to the Japanese experts and their families, to serve the cooperation of the authorities concerned of the Republic of Iraq in performing the duties of the Japanese experts.

(13) The Passage through Customs

The Iraqi Team explained that it will take necessary measures to allow Japanese experts and their families to pass the customs smoothly on their arrival in and on their departure from the Republic of Iraq from and to Japan.

D. Provision of the Equipment

- (1) Prompt Report to JICA on the Result of the Check of the Equipment and Secure for it

The Iraqi Team confirmed that it will check the condition of the equipment immediately after its arrival in the Project site and promptly report the result to JICA. The Japanese Team

Ya

[Signature]

[Signature]

mentioned that it is important in relation to the arrangement by JICA for the dispatch of the Japanese Experts for the installation of the equipment.

In addition to this, the Iraqi Team confirmed that it is responsible to secure the equipment to avoid any troubles to the equipment.

(2) The Equipment Common to the Four Departments

Japanese Team explained that it will provide the equipment shown in the Annex 3.

The Iraqi Team requested that the additional three sets of VCR(VHS), TV and TV stand should be provided so that each course can use one set in addition to one video camera. To this request, Japan Team responded that Japan side will study it after confirming the good condition of the production of the video materials (software) conducted by the Iraqi counterpart personnel. The Iraq Team explained that it plans to produce totally 50 video films (software education materials) for the for four courses.

The Japanese Team explained that it will provide one photo-copy machine and one drawing-copy machine after the coordinator of the project confirms that there is no problem in maintaining the good function of these equipment in the Republic of Iraq.

(3) The Equipment of Electricity, Electronics and Physics Laboratory

The both Teams confirmed that the Japanese Team will study the equipment for the electricity, electronics and physics laboratory, which was scheduled to be used for the first year's grade of the three-year's basis education, after the Iraqi Team forwards the detailed specifications on it to Japanese side as the both sides agreed in the Minutes of Discussions signed on April 19, 1989.

The both Teams confirmed that the range of the technical cooperation by the government of Japan for the Project basically exclude the curriculum for the basic education, as originally planned for which the above-mentioned equipment is to be used, and the Japanese Team mentioned that the provision of the equipment of the above should be considered as the exceptional case if it is implemented.

(4) Analyzer

The Japanese Team informed the Iraqi Team that the five sets of analyzer with monitor, which were additionally requested by Iraqi side in the minutes of meeting signed on April 19, 1989, will not be provided, considering that the budget for

the Project is limited and that the technical level of the analyzer is so high and not adequate as the equipment for the students of the Center who are the graduates of the secondary school.

(5) Necessary Measures to Avoid Accident

The Japanese Team requested that the Iraqi counterpart personnel take necessary measures to avoid any accident to the student which may be caused during the practice session especially for Escalator course and Factory Lighting and Electrical Wiring course.

(6) The Location of the Instalation of the Personal Computers

The both Teams agreed to finally fix the rooms for the installation of the personal computers (16 Bit and 32 bit) for the Personal Computer course in the Electric Department Building, which is placed next to the main building of the Center and decided the layout for them and UPS equipment as shown in Annex 4.

(7) Preparation for the Installation of The Personal Computers by the Iraqi Counterpart Personnel

The Iraqi Team agreed to complete to supply the AC Cable up to the UPS Equipment and the preparation of the Breakers not later than the end of April 1990 for the Personal Computer course as shown in Annex 5.

(8) Fundamental Works and others by the Iraqi Counterpart Personnel

The Iraq Team agreed that it will complete the fundamental works, wiring, piping for the Factory Automatic Control course.

(9) Entrance of the Equipment into the Model Room and the Generator House

The Iraqi Team agreed that it will complete the entrance for the equipment into the Model Room and the construction of the generator house for the Factory Lighting and Electrical Wiring course not later than the beginning of April 1990.

(10) Tools, Manpower and others for the Installation of the Equipemnt

The Iraqi Team agreed that it will be responsible to prepare construction equipment, tools and manpower required for the installation of the equipment.

Ya

my

abd

(11) Accident towards the Equipment by the Electrical Breakdown

The both Teams agreed that the Iraqi counterpart personnel will bear all the responsibilities to take necessary measures to avoid any troubles towards the equipment in the Center, especially towards the personal computers, and that the Japanese side will bear no responsibilities in case the electrical breakdown may cause any troubles to the equipment.

(12) Textbooks for Students

The Japanese Team advised that the Iraqi counterpart personnel should take active action in making textbooks for the students with the technical consultation of the Japanese experts..

(13) Proper and Exclusive Utilization of the Equipment

The both Teams reconfirmed that the equipment provided by the government of Japan will be utilized properly and exclusively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese experts as shown in III 2. of the Record of Discussions signed on March 30, 1988.

(14) Supply or Replacement of the Materials Necessary for the Implementation of the Project

The both sides reconfirmed that the Iraqi side will take necessary measures to provide at its own expense, the supply or replacement of machinery equipment, instrument, vehicles, tools spareparts and other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided through JICA as shown in V (3) of the Record of Discussions signed on March 30, 1988.

The Japanese Team stressed that the Iraqi Team should take the initiative in acquiring the above-mentioned materials in order to allow the project continue to work properly even after the termination of the cooperation period by the Government of Japan.

(15) The Iraqi Team forwarded the Budget Allocation for the Center in Fiscal 1990 as shown in Annex 6.

E. The Training Program of the Counterpart Personnel as the Trainees in Japan

(1) The Nomination of the Counterpart Personnel as the Trainees in Japan

The Japanese Team recommended the Iraqi Team to nominate the male counterpart personnel instead of the female one as trainees in Japan for the Escalator course and Factory Lighting



and Electrical Wiring course. The Japanese Team explained that one of the reasons for the above is that 100% of those people working in the fields are male in Japan and the facilities for the female are not well prepared at the site, which would cause various troubles to the female counterpart.

(2) The Nomination of the Instructors for the Basic Education as Trainees in Japan

The Iraqi Team explained that it had nominated one of the instructors for the basic education as the counterpart personnel having training in Japan in fiscal 1990. The both Teams reconfirmed that the range of the technical cooperation program for the Project basically does not include the basic education and the Japanese Team stressed that the technical transfer from the Japanese experts to the Iraqi counterpart personnel in the four courses is very important and should be implemented hopefully at the as earlier stage of the project period as possible. Iraqi side responded to it by cancelling the nomination of the instructor for the basic education as the trainees in Japan.

(3) Cooperation by the Counterpart Personnel

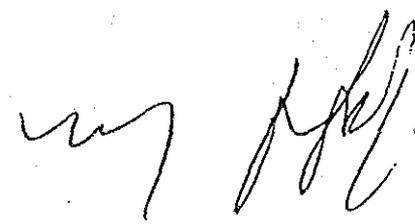
The Japanese Team requested that the counterpart personnel should be cooperative to the officers in JICA and the Japanese experts and healthy both physically and mentally as well as technically qualified.

(4) The Organization Chart and Name List

The Iraqi Team forwarded the organization chart of EEITC and the name list of the Iraqi counterpart personnel as of February 26, 1990 as shown in Annex 7 and Annex 8..

F. The Request for the New Project

The Iraqi Team explained the needs for the new project to meet the necessity of the new manpower in the field of the electric and electronic industries in the Republic of Iraq and forwarded their request as shown in Annex 9. Japanese Team mentioned that it is not authorized to give any commitment on the new project and responded that it will convey the matter to the concerned institution in Japan as an information. Furthermore the Japanese Team stressed that the both sides should make their best efforts at the present stage for the successful implementation of the present Project (Phase II).

ya 

Annual Work Plan (AWP) for fiscal 1990

Month	April	May	June	July	August	September	October	November	December	January	February	March	Note
Coordinator													30/7/23-32/7/27 1 p.
Technical Assistance (exclude Escalator)	1 p. (Working Week)	1 p.			8/25						2/24	1 p./course	
Technical Assistance (Escalator)					8/25					1 p.			
Dispatch of Japanese Experts										1/24			
Installation of Equipment (exclude Escalator and Personal Computer)		1 p./course											
Installation of Equipment (Personal Computer)				floor work 3 p.	1 p. 15 bit								
Provision of Equipment/Machinery (exclude Escalator and Personal Computer)													
Provision of Equipment/Machinery (Personal Computer)			X 15 bit									○ 32 bit	
Training of Iraqi C/P in Japan		9/8		7/17									
Course Schedule in Iraq													
Official Request to be made by Iraqi Side													

ya am mt.

p. = person ○ = departure from Japan X = arrival in Iraq
The figures of the date include the day for the departure from and arrival in Japan.
This schedule is subject to change in the future necessity arises.

The Project on Electrical and Electronic Industries Training Center in the Republic of Iraq (Phase II)

[Two Years Work Plan for October 1989 - September 1991]

Item	Month												NOTE				
	1989	OCT	NOV	DEC	1990	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL		AUG	SEP		
COURSE SCHEDULE IN IRAQ	PC COURSE																
	E-VL COURSE																
	FP COURSE																
TRAINING OF IRAQ C/P IN JAPAN																	
DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS	COORDINATOR																
	TECHNICAL ASSISTANCE (EXCLUDE E)																
	TECHNICAL ASSISTANCE(E)																
	INSTALLMENT OF EQUIPMENT (EXCLUDE E AND PC)																
PROVISION OF EQUIPMENT/MACHINERY	EXCLUDE E AND PC																
	PC COURSE																

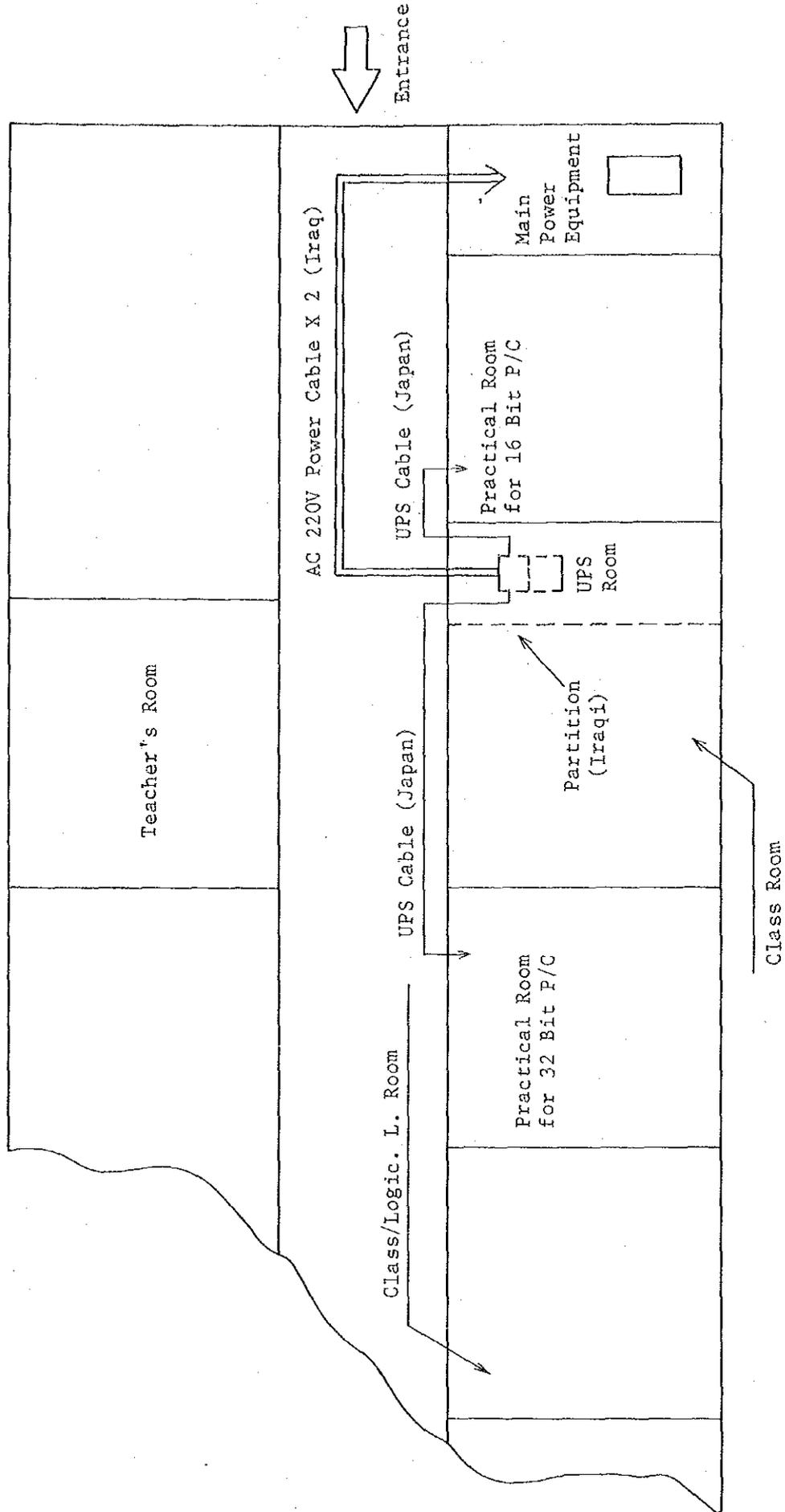
C=ESCALATOR COURSE, FP=FACTORY CONTROL COURSE, PC=PERSONAL COMPUTER COURSE, VL=FACTORY WIRING & LIGHTING COURSE, P=PERSON. O=DEPARTURE FROM JAPAN X=ARRIVAL IN IRAQ

<<The Equipment Common to the Four Departments>>

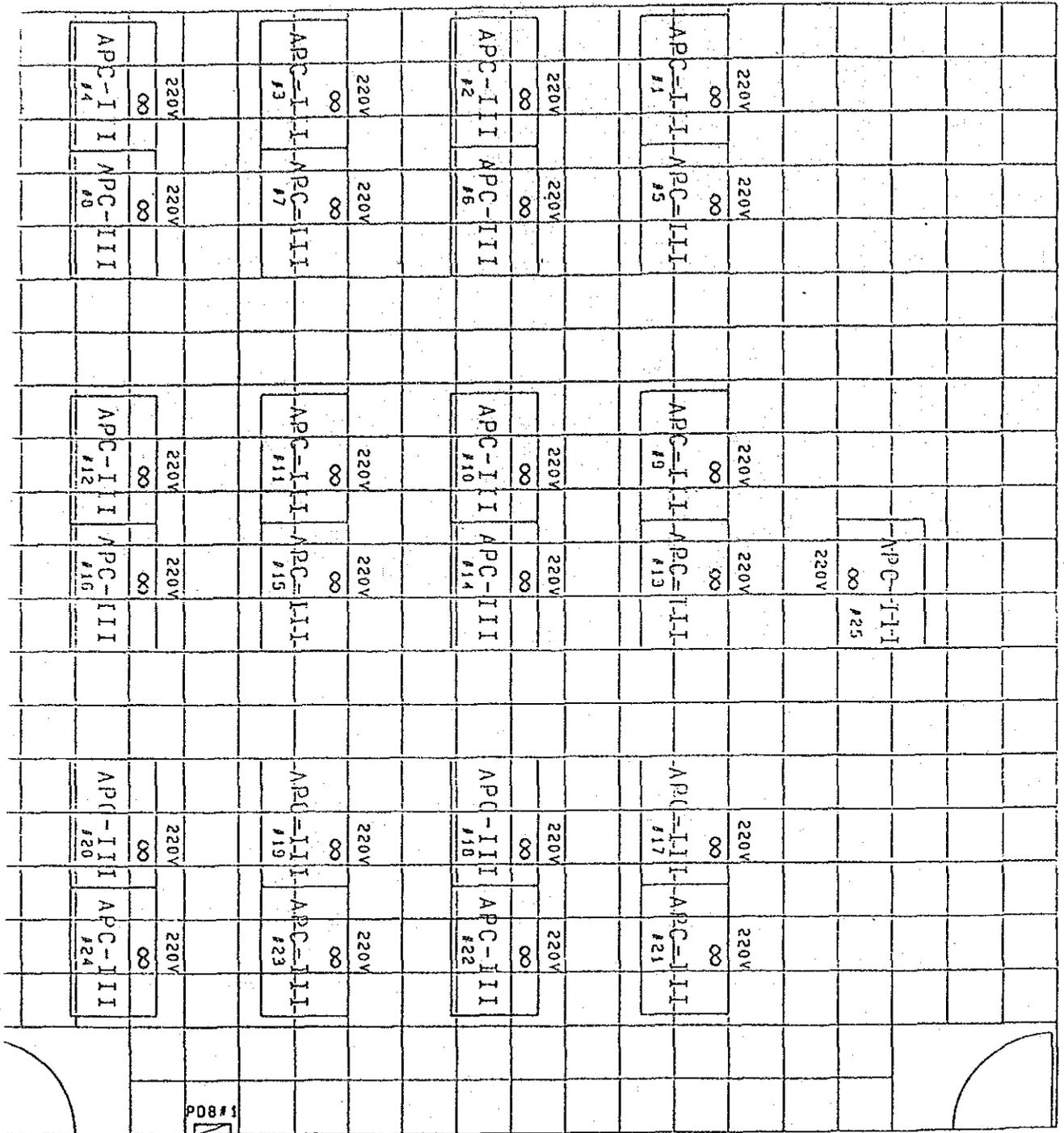
Course Equipment	Escalator	Personal Computer	Factory Automatic Control	Factory Wiring and Lighting	Japanese Experts	Total
Air Conditioner	0	4	3	3	4	14 units
White Board	3	4	4	3		14 units
Pen (Red,Blue)	30 sets	40 sets	40 sets	30 sets		140 sets
(Black)	150	200	200	150		700
OHP + Screen	2 sets	4 sets	4 sets	3 sets		13 sets
Films	400	800	800	600		2,600 pieces
Pen (3 color)	6 sets	12 sets	12 sets	9 sets		39 sets
Slide Projector	1	0	0	1	1	3 units
Film	5 boxes	0 boxes	5 boxes	5 boxes	5 boxes	15 boxes
Desks for Personal Computer		30				30 units
VCR (VHS) + TV + TV Stand	-----					1 set
			1 set			

ya may pff

Ground Floor Plan Electric Dep. Building



Layout Plan of Practicel Room for 16 Bit / 32 Bit P/C



10000

Yes my CONTRACTED SPACE

EEITC FINANCIAL BALANCE

for
FISCAL 1990

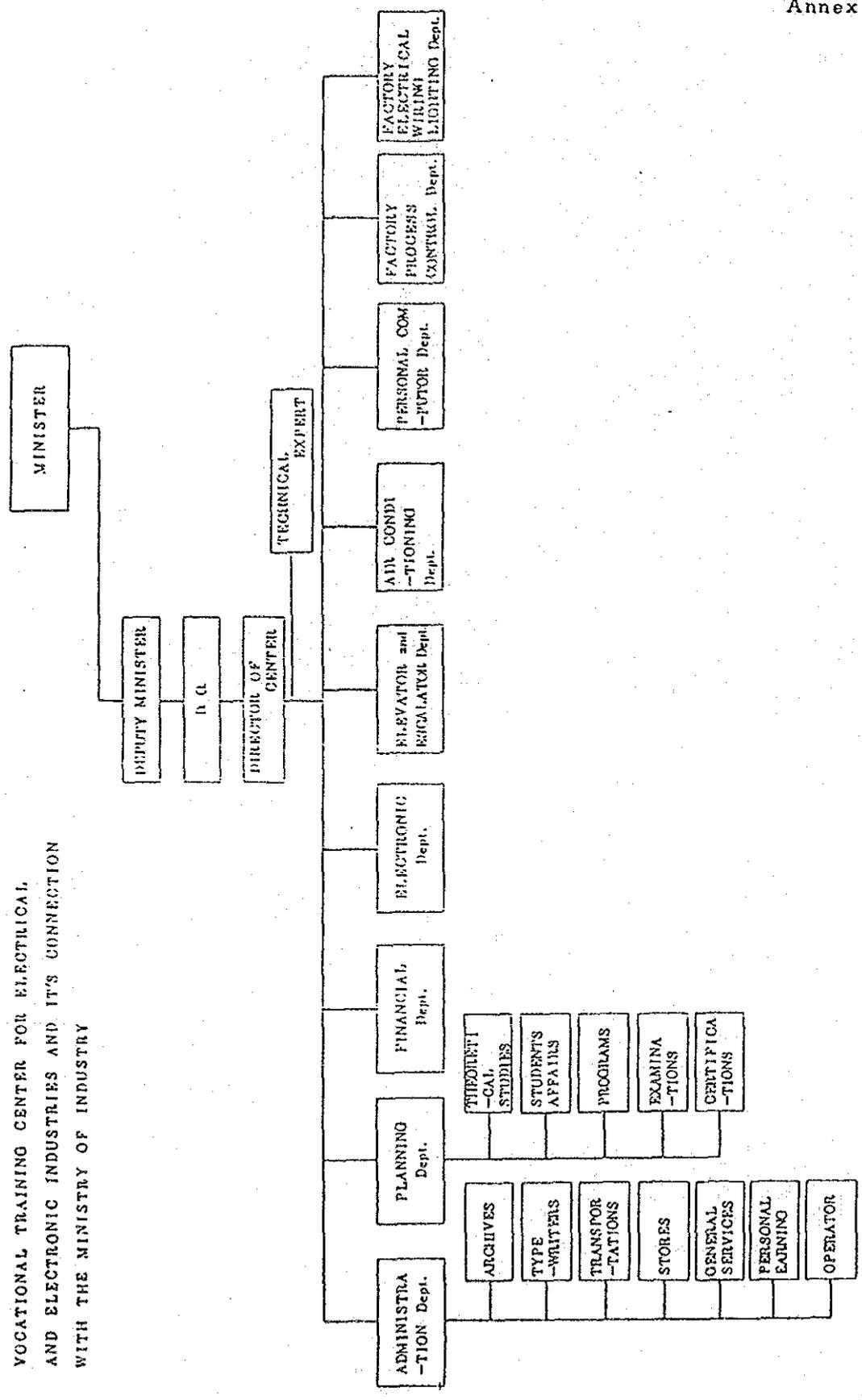
1990

1- Staff Expenditure	252,000 ID
2- Service Requirements	283,600 ID
3- Loans Services	72,000 ID
4- Maintenance for Exister	44,100 ID
5- Capital Expenditure	80,300 ID
6- Transferring Expenditure	11,000 ID
7- Special Programming	_____
Total	743,000 ID

US\$3.23/ID

you may pff

ORGANIZATION CHART
 VOCATIONAL TRAINING CENTER FOR ELECTRICAL,
 AND ELECTRONIC INDUSTRIES AND ITS CONNECTION
 WITH THE MINISTRY OF INDUSTRY



ya my job

List of Counterparts

No.	Name	Birth Year	Position at BEITC	Field in Charge	A	Final [or Main] Academic Background	Period of Training Experience through JICA
1	Mr. Sakar Kadhun Hamad Al Janabi	1943	Director		1984	Secondary Industrial School (Mechanic) 58-63	5-29/10/88
2	Mr. Khudair Abas	1955	Teacher, Elevator Dept.	Escalator	1980	Univ. of Technology (B.S., Electronic Eng.) 74-70	28/9-29/11/88
3	Miss Maha Abdul Satar Abdul Karim	1962	Teacher, Electronic Dept.	Personal Computer	1982	Institute of Technology (Diploma, Electronic) 79-01	28/9-20/12/88
4	Mrs. Amany Munther Hana	1963	Teacher, Electronic Dept.	Fac. Process Control	1985	Univ. of Technology (B.S., System Control) 80-85	" etc.
5	Mr. Ibrahim Hadi Khdir	1948	Teacher, Theoretical Dept.	Fac. Elec. Mfg. & Lightg.	1987	Univ. of Technology (B.S., Electric Eng.) 83-86	"
6	Mr. Hikmat Kh. Hayder	1944	Director, Planning Dept.	(Planning Dept.)	1980	Univ. of Baghdad, College of Science (B.Sc. Physics) 63-67	

A - Year of Starting to work at BEITC

No.	Name	Birth Year	Position at ERITC	Field in Charge	A	Vinal [or Main] Academic Background	Period of Training Experience through JICA
7	Mr. Raad Abdul Ahad Kas	1951	Head of Dept.	Personal Computer	1980	Univ. of Baghdad (B.S. Electronic Eng.) 70-75	68/8~89/10
8	Mr. Akram G. Alroumy	1948	Head of Dept.	Fac. Ele. Wrg. & Lightg.	1977	Univ. of Technology (B.S. Mechanical Eng.) 67-72	
9	Mr. Ali R. Ali	1951	Head of Dept.	Elevator and Escalator	1977	Univ. of Baghdad College of Eng. (B.Sc. Mechanical Eng.) 68-72	68/8~89/10
10	Mr. Rashad M. Redha	1957	Teacher	Elevator and Escalator	1985	Univ. of Technology (B.S. Mechanical Eng.) 77-81	68/8~89/10
11	Mr. Saad M. Dawood	1954	Teacher	Fac. Process Control	1987	Univ. of Technology (B.S. Electricity)	68/8~89/11
12	Mrs. Naval Hassoun M. Mohammad	1957	Instructor	Elevator and Escalator	1981	(Diploma in Electricity)	
13	Mrs. Amal Fadhel	1961	Instructor	Elevator and Escalator	1985	(Diploma in Mechanics)	
14	Mr. MOHAMAD. ABDULGA Foor	1952	Instructor	Elevator and Escal DEPT		Diploma in Electric	
15	Mrs. Intesar Alwan	1958	Instructor	Personal Computer	1982	(Diploma in Electronics) 77-79	

No.	Name	Birth Year	Position at EETC	Field in Charge	A	Final [or Main] Academic Background	Period of Training Experience through JICA
16	Miss Anna Abdul-Amir	1964	Instructor	Personal Computer	1982	(Diploma in Electronics) 77-79	
17	Mrs. Rawa Elia Khaddoury	1958	Instructor	Factory Electrical Wiring and Lightg.	1987	(Diploma in Electricity) 75-77	
18	Mr. Nadhim Abdul Muhsin	1942	Teacher	(Planning Dept.)	1978	Univ. of Baghdad (B. Sc. in English Language) 65-69	
19	Miss Khawla Leibi	1959	Teacher	(Planning Dept.)	1983	Univ. of Baghdad (B.Sc. in Mathematics) 79-82	
20	Miss Loma Hanna	1959	Instructor	(Planning Dept.)	1980	(Diploma in Engineering Drawing) 77-79	
21	Miss Eman Hassan	1956	Instructor	(Planning Dept.)	1980	(Diploma in Electricity) 78-79	

OFFICIAL REQUEST FROM
VOCATIONAL TRAINING CENTER
TO JICA

DEAR SIRS

WE ARE SO PLEASURE IF YOU AGREE ABOUT OUR REQUEST WRITE DOWN HERE,
BECAUSE OF THE NECESSITY OF THIS SUBJECT.
AFTER 10 YEARS OF THE WORK IN THE REFRIGERATION AND AIR CONDITIONING
DEPARTMENT, THE NEED NOW IS TO DEVELOPE THIS DEPARTMENT OR TO CONTINUE
THE STUDYING CONCERNING THE FIELD OF REFRIGERATION AND AIR CONDITION-
ING EQUIPMENTS.
THESEKINDS OF STUDYING ARE CONCERNING THE FOLLOWING ITEMS.

a-DESIGNING b-CALCULATING c-MANUFACTURING.

THE FOLLOWING HEAT EXCHANGERS:-

1-WATER COOLED CONDENSERS AND EVAPORATORS.

2-AIR = = = =

3-COOLING TOWERS.

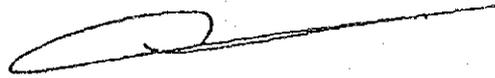
4-AIR HANDLING UNITS .

5-FAN COIL UNITS .

WE BELIEVE THAT THESEKINDS OF STUDYING ARE VERY IMPORTANT TO THINK
ABOUT BECAUSE OF THE FOLLOWING POINTS:-

- 1-THE DEPARTMENT NOW IS IN STABLE CONDITION CONCERNING ALL THE EQUIP-
MENTS WHICH WERE DISPATCHED FROM JAPAN THROUGH THE FIRST PHASE OF
BUILT UP THIS TRAINING CENTER. EVERY THING NOW IS WORKING GOOD, AND
THE STUDENTS TAKE THEIR OPPORTUNITY TO HAVE TRAINING FOR ALL OF THE
EQUIPMENTS.
- 2-MOST OF OUR GRADUATED STUDENTS WERE DISPATCHED TO MANUFACTURING FA-
CTORIES WHICH DEAL TOO MUCH WITH THE HEAT EQCHANGERS.
- 3-IN THE NEARER FUTURE WE EXPECT THAT OUR GOVERMENT WILL THINK STRON-
LY TO PRODUCE THE HEAT EXCHANGERS FOR THE AIR CONDITIONING UNITS.
AND OF COURSE SUCH SKILLED WORKERS WHO WILL TRaine ABOUT THESE
SUBJECTS ARE VERY IMPORTANT.

THANKYOU IN ADVANCE FOR YOUR COOPERATION


DIRECTOR

OF THE TRAINING CENTER

Jpa
[Handwritten signatures]

DEAR SIR:-

WE ARE SO PLEASURE TO INFORM YOU THAT THE TIME IS BEING NOW TO EXTENT THE REFRIGERATION AND AIR CONDITIONING DEPARTMENT IN THE FOLLOWING TWO SUBJECTS, KEEPING IN OUR MIND THAT THE SUBJECT CONCERNING THE FIELD OF HEAT TRANSFER WHICH WAS SUBMITTED TO YOU BEFORE HAD BEEN ALREADY KNOWN BY JICA SIDE.

THE PRESENT TWO SUBJECTS ARE:-

A-DUCT WORKING FIELD WHICH INCLUDE:-

- 1-CALCULATING, AND DESIGNING THE SIZES OF THE AIR DUCTS.
- 2-THE FIELD OF APPLICATION TO MAKE THESE DUCTS IN THE WORK-SHOP, ESPECIALLY WE HAD THE MACHINES FOR THE DUCT APPLICATION JOB FROM PHASE NO.1.

B-IT WILL BE HELPFULL IF WE EXTENT OUR KNOWLEDGE ABOUT THE BOILERS FROM THE VIEW OF REPAIRING, MAINTAINING, AND OPERATING

THIS SUBJECT IS VERY IMPORTANT FOR THE GRADUATED STUDENTS FROM OUR DEPARTMENT BECAUSE MOST OF OUR FACTORIES HAVE THESE MACHINES, AND THE PEOPLE WHO ARE WORKING IN THIS FIELD ARE VERY FEW.

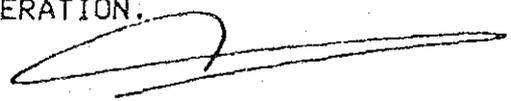
THE KIND OF STUDYING IN THIS SUBJECT INCLUDING THE FOLLOWING:-

- 1-HOT WATER BOILERS.
- 2-STEAM BOILERS.

THANKYOU IN ADVANCE FOR YOUR COOPERATION.

Ysa

May 1980



DIRECTOR

OF THE TRAINING CENTER

DEAR SIR:-

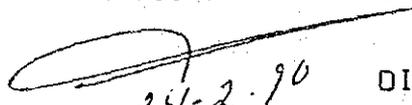
DURING THE LAST 10 YEARS PAST, WE HAD DISPATCHED THE GRADUATED STUDENTS FROM THE ELECTRONIC DEPARTMENT TO THE INDUSTRIAL FACTORIES WHICH BELONGE TO OUR MINISTRY, WE MET TOO MUCH DIFFICULTIES WHEN OUR GRADUATED STUDENTS ATTEND THOSE FACTORIES, BECAUSE THE FACTORIES ARE REQUESTED TO HAVE WORKERS WHO HAVE GOOD KNOWLEDGE ABOUT THE AUTOMATION OF THIER MACHINES RATHER THEN TO HAVE PEOPLE WHO HAVE KNOWLEDGE IN RADIO OR CALCULATORS.

FOR THESE REASONS IF WE WANT TO SATISFY THE REQUIRMENTS OF OUR FACTORIES WE HAVE TO THINK STRONGLY TO DEVELOP THE ELECTRONIC DEPARTMENT IN THE FOLLOWING TWO STEPS:-
A-TO HAVE AFULL KNOWLEDGE ABOUT THE MEASURING INSTRUMENTS FROM THE VIEWS OF:-

- 1-ANALYZING THE ELECTRICAL SEQUENCE.
- 2-THE WAY OF CONSTRUCTIONS.
- 3-THE ABILITY OF REPAIRING.

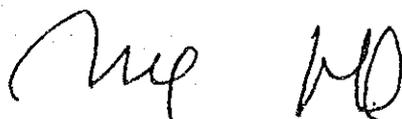
B-TO HAVE ALABORATORY CONCERING THE FACTORY AUTOMATION EXPERIMENTS, WHICH EXPLAINING THE WAYS OF CONTROLLING THE PRODUCTION MACHINES USING SOME ELECTRONICE DEVICES.

THANK YOU FOR YOUR COOPERATION


24-2-90 DIRECTOR

OF THE TRAINING CENTER





ELEVATOR AND ESCALATOR DEPT.

IN 1979 JICA BUILT ELEVATOR DEPT. AND IN THAT TIME INSTALLED TWO KIND OF ELEVATOR ; ONE KIND AC-TWO SPEED ELEVATOR THE OTHER KIND DC-60 M-G SET ELEVATOR.

FROM THAT TIME UNTIL NOW THERE ARE MANY DEVELOPMENT HAPPENED IN CONTROL SYSTEM FOR ELEVATOR. ALSO THE ELEVATOR SYSTEM EXISTING IN IRAQ NOW IS MORE DEVELOPMENT THAN THE ELEVATOR SYSTEM EXISTING IN OUR DEPT. SO THAT TO FOLLOW THE DEVELOPMENT .

IN ELEVATOR SYSTEM WHICH HAPPEN IN THE WORLD AND IRAQI MARKET, WE ASKED KINDLY FROM JAPANESE SIDE REPRESENTATIVE BY JICA TO HELP US IN THIS FIELD BY THE FOLLOWING.

- 1-ONE ELEVATOR AC-TYPE REACTOR CONTROL
- 2-ONE ELEVATOR DC-60 THYRISTOR CONTROL WITHOUT M-G-SET.
- 3-THREE PERSON TRAINING IN JAPAN FOR TWO MONTH.
- 4- TRAINING EQUIPMENT FOR ABOVE TWO KIND ELEVATOR.

THANK YOU



S. K. AL-JANABI

26.2.1990

gka

2

my up 10

Ⅷ イラク情勢案内

平成元年7月

在イラク日本国大使館

目 次

1. 概 観	65
2. 内 政	66
3. 経 済	67
4. 外 交	69
5. 対日経済関係	70
付録資料	71

1. 概 観

- | | |
|------------|--|
| (1) 国 名 | イラク共和国 |
| (2) 革命記念日 | 1968年7月17日 |
| (3) 首 都 | バグダッド(人口 約385万人) |
| (4) 面 積 | 438,300平方キロ(日本の約1.2倍) |
| (5) 人 口 | 約1,600万人(1987年10月現在) |
| 在留邦人 | 483人(1989年3月1日現在) |
| (6) 民族構成 | アラブ人 70%
クルド人 20%
その他 10%(イラン, トルコ, アッシリア, アルメニア人等) |
| (7) 宗 教 | イスラム教 95%
アラブ・スンニ 25%
アラブ・シーア 50%
クルド・スンニ 20%
キリスト教 4%
その他 1% |
| (8) 言 語 | アラビア語及びクルド語 |
| (9) 気 候 | 夏季高温, 冬季は摂氏零度以下になることもある。
年平均気温は24度 |
| (10) 国 際 日 | 7月17日(1968年革命記念日) |
| (11) 通 貨 | イラクダイナール(ID)
1米ドル=0.311ID |
| (12) 政治形態 | |
| 政 体 | 共和制 |
| 元 首 | サッダーム・フセイン大統領(1979年7月17日に就任) |
| 政 党 | バアス党, クルド民主党, クルド革命党 |
| 議 会 | 一院制(250名), 4年毎改選 |
| (13) 軍 事 | |
| 陸 軍 | 兵 力 955,000(7個軍団, 52個師団)
戦 車 4,500両
装甲車等 4,000両
火 砲 3,000門 |
| 海 軍 | 兵 力 5,000 |

	戦闘艦艇	17隻(内10隻はイタリアより未引渡)
空軍	兵力	40,000
	作戦用航空機	500機

(4) 経 済

国民総生産	133億ID(1986年)	
	(4.28億ドル相当)	
一人当りGNP	約830ID	
石油	確認埋蔵量	1,000億バレル(1988年1月1日)
		(OPEC比14.8%,世界比11.2%)
	原油生産量	264万バレル/日(5月まで)
	原油輸出能力	現在220-240万バレル/日

2. 内 政

(1) バアス党政権は、今年で成立21年目になる長期独裁政権であり、フセイン大統領が政権の座に就いてからも既に10年目を数えるが、その間フセイン大統領は、数回にわたる内閣及び党指導部の改造によって潜在的な反体制勢力の排除に成功、その権限を強化してきた。

(2) 86年のイランによるファオ占領以来の戦況の悪化に伴い一般民衆や兵士の間には疲弊感が高まっていたが、88年4月のファオ奪回以降の連戦連勝により士気も高まり、8月20日の停戦実現もイラクの勝利と受け止められ大統領の人気も高まった。

なお、停戦後戦災都市の復興を進め内外にイラクの平和を指向する立場を強調するため、フセイン大統領の直々の命令により2月から6月の4カ月間でバスラ復興を完了し、6月25日からはファオ再建に取りかかっている。

しかし、停戦後11カ月を経た現在、物価高、兵士復員の遅れ等に対する国民の不満が徐々に顕在化してきており、これに対してフセイン大統領は、89年1月には将来新憲法を起草し複数政党制を導入する予定である旨発言し、4月には5年ぶりの国民議会選挙を行う等、「民主政治」に向けての動きを国民に示す一方で、物価高については4月に生活基本物資価格統制令を導入して国民感情の融和に努める慎重な政策を行っている。

(3) 当国には立法、行政、司法全般にわたりあらゆる国務事項を討議、決定する権限を有する革命指導評議会(議長はフセイン大統領)が置かれており、当国の最高機関を構成している。内閣はフセイン大統領以下24人にて構成されている。

他方バアス党(党員約2万3千人)は、全アラブを対象とする民族指導部とイラク国内の党組織を統括する地域指導部で構成されているが、同党も国政上重要な役割を果たし、

屢々革命指導評議会及び内閣とともに拡大会議を開いて国政を議する。

- (4) 国民議会は4年に1度の国民直接選挙により選出された250名の議員より構成される。現在の議会は89年4月の総選挙により成立している。国民議会には軍事及び治安関係事項の立案権がなく、立法権限上、大統領、革命指導評議会の下位に属している。

3. 経 済

(1) 危機的状況のイラク経済

当国の経済は長期化したイ・イ紛争中の停滞及び石油に全面的に依存する体質が足かせとなり、苦しい経済運営を強いられているが、停戦後、政府として経済再建に最大の努力を払っており、その成否が注目される。

まず、イ・イ紛争開戦後、戦争と経済開発同時進行という積極的政策が困難に直面し、82年秋から財政悪化が顕在化したため、債務繰り延べ・外貨送金の制限・通貨切り下げ等の措置を取るに至った。

その後、新規パイプラインの完成により石油収入の道は確保されたものの、86年の石油価格の大巾な下落により外貨事情は更に悪化し、紛争終結時点での対外債務は一説には700-800億ドルともいわれている。最近の石油価格の回復、OPEC内でのイラクの生産枠の上昇(264万バレル/日から278万バレル/日)により石油収入の増大が若干見込まれるものの、石油収入は年間140-150億ドル程度と見積もられ、上記の莫大な対外債務を考慮すると基本的に今後とも厳しい経済運営を強いられるものと予想される。

(2) 開発プロジェクト

戦時下の外貨不足、産業施設へのイランの攻撃にもかかわらず、戦前から着手していたプロジェクトの進捗は、スローダウンしたもののそれなりに進められてきた。この結果、高速道路、肥料向上、火力発電所等が完成または完成間近かになっている。一方、停戦に伴い、外貨獲得型産業・輸入代替産業の育成及び生活基盤の整備に重点を置き、石油製油所、石油化学プラント、肥料工場、セメント工場、製鉄所等の建設やバグダッド首都圏開発計画など当国の財政事情に鑑みると野心的ともいえる計画を打ち出している。

(3) 基礎的物資の安定供給

食料品を中心として基礎的生活物資については補助金が支給されているが、88年の物価統制令の撤廃以降基礎的物資を中心に89年初めにかけて2-3倍近い値上がりが見られたため89年4月に再び物価統制令が発出された。このため一時的に品不足が生じたものの現在までのところ物価は安定的に推移している。

また、89年7月から公務員給与を一律25%引き上げる措置が取られた。

(4) 石油情勢

(イ) 基礎的石油資料

確認埋蔵量	1,000億バレル(88年1月1日) (OPEC比14.8%,世界比11.2%)
原油生産能力	450万バレル/日
原油生産量	264万バレル/日(5月まで。6月開催されたOPEC総会で生産枠が従来の264万バレル/日から278万バレル/日に増量された。)
原油輸出能力	現在220-240万バレル/日 トルコ経由パイプライン 160万バレル/日 サウジ経由パイプライン(IPSA-I) 50万バレル/日

注 サウジ経由パイプライン(IPSA-II, 115万バレル/日)が9月稼働開始の予定である。

6月から湾岸輸出用ターミナルが稼働開始。当面20万バレル/日の輸出能力で稼働中であるが将来的には本年中に湾岸から200万バレル/日の輸出能力を確保する予定である。

これらによりイラクの石油輸出能力は、5-6百万バレル/日になる。

国内消費 現在30万バレル/日であるが、今後停戦に伴い軍隊関係の消費の低下すること、省エネの促進により国内消費を低減させることに努めている。

国内精製能力 現在役60万バレル/日

(ロ) 石油戦略

86年12月のOPEC総会以降イランとの同枠を主張し、合意からは除外されていたが、88年11月の同総会で同枠が認められOPECの合意に復帰した。その後、生産枠は遵守している。輸出先については豊富な輸出能力(今後5-6百万バレル/日に拡大する)及び輸出経路を背景にコマーシャルベースで輸出先を決定するとしている。また、契約については一部を除いて基本的に長期契約を指向し、安定的な供給先の獲得に努めている。

(ハ) その他

戦後^{*}(ガルフ)の港が整備されたことに伴い、3月末以降バスラ製油所で精製された石油製品についてペルシャ湾岸より輸出が開始された。今後、バスラ近郊のコール・アルズベイル港の整備が進行するに伴い石油製品の輸出は増加の傾向にある。また、6月以降湾岸(the Gurf)からの原油輸出が試験的に再開され現在20万バレル/日程度の

(*) アラビア諸国はアラビア湾と呼称しており、ペルシャ湾と呼ぶことはさげなければいけない。
the Gurfは中立的な呼び方。

原油が輸出されている。なお、LPGプラント（年間生産量400万トン）がコール・アルズベイルに建設される予定。

4. 外 交

- (1) 当国はイ・イ紛争勃発当初より同紛争の早期終結を目指しイランに対し恒久的包括的和平実現を呼び掛けてきたところ、87年7月に安保理が即時停戦、撤兵を求める決議598を採択するやいち早くこれを歓迎すると共にイランをしてこれを受諾せしむるよう各国に働きかけてきた。

88年7月18日、イランが突如安保理決議598を受諾し、若干の迂余曲折を経て8月20日停戦が実現し、同停戦監視には24か国から派遣された約350名から成る国連イラン・イラク軍事監視団があたることになった。

他方8月25日からジュネーブで開始された和平交渉は、其後、断続的に4度（初回を含む）実施されたが、イラン側が即時撤兵を主張しているのに対し、イラク側は現在の停戦がイラン側に一方的に有利としてシャトルアラブしゅんせつ実施及びアラビア湾・ホルムズ海峡における自由航行保証を求める等意見の相違が著しく全く進捗が見られないのが現状である。

- (2) 当国はイランとの戦争遂行に当り幅広くアラブの盟友の支援確保に努め、シリアを除くほとんどのアラブ諸国と緊密な関係を維持している。特に従来より強くイラクを支持してきたエジプト、イエメン、ヨルダンとはアラブ協力理事会を設立し、4か国間の経済協調推進に向け活動している。

他方、戦時中イランと同盟関係にあったシリアとは国交を断絶しており、ヨルダンのフセイン国王等アラブ要人の仲介努力にもかかわらず両国間には激しい対立関係が存続している。特に停戦後イラクはレバノンにおいてシリアに敵対するアオン暫定内閣を武器供与等を通じて支援する等、その反シリア政策を維持している。

- (3) 米国とは84年11月の国交回復以来その関係を徐々に拡大してきたが、86年1月に発覚したイラン・ゲート事件により右関係は一時冷却化した。その後米国がイ・イ紛争和平実現に向け積極的に動いたためイラクもこれを評価し、関係改善の兆しが見えたが87年5月のスターク号誤爆事件が同関係の一層の発展に水を差すものとなった。更に88年9月にはイラク軍による対クルド系住民化学兵器使用が契機となり米国議会が対イラク経済制裁の動きを示したため米国・イラク関係はかなり冷え込むに至った。その後、要人往来等を通じ同関係改善が鋭意進められているものの望むべき水準にまで回復していないのが現状である。

- (4) 他方ソ連とは、1972年の友好協力協定に基づき良好な関係を維持してきており、特

にイ・イ紛争中ソ連はイラクの平和的立場を支持すると共に最大の武器供与国として援助を行ってきた。しかし、89年6月イランのラフサンジャニ国会議長の訪ソ時にソ連がイランの防衛力強化に協力する用意がある旨表明したのに対し、イラクはこれは対イラク用の武器供与としか考えられないとしてソ連への反発を強めており今後の関係が注目される。

5. 対日経済関係

(1) 対イラク貿易

輸出については79年から81年は日本が対イラク輸出国のなかで第一位(シェアは20%近く)で、81年には過去最高の約30億ドルを記録、その後当国の経済規模縮小に伴いわが国からの輸出も急激に低下し、現在では3-4億ドル程度となっている。この原因としては、イラク側の債務支払が、原油代金の一部による債務の一部返済スキームを除き、滞っていることが挙げられる。このため現在のところ 人企業としては対イラク輸出に消極的である。また、対イラク輸入についてはほぼ100%が石油であり、88年には17万バレル/日(日本の原油輸入量の5.1%)を輸入した。

(2) 経済技術協力

(イ) 経済技術協力協定及び日イ合同委員会

74年に経済技術協力協定が締結され、これに基づき日イ合同委員会が開催されている(77年1月東京、79年7月バグダッド、81年1月東京、83年11月東京、87年バグダッド)。

(ロ) 経済技術協力協定締結後、わが国の資金協力(混合借款)により実施された経済開発プロジェクトは、コールアルズベイル肥料工場(75年)、ハルサ火力発電所(77年)、5病院医療機器供与(83年)、8病院医療機器供与(83年)、ベイジ肥料工場(85年)。

(ハ) 技術協力

(i) 電気産業訓練センタープロジェクト(フェーズII)

日本の協力により80年1月に設立された電気産業訓練センター(フェーズI:協力期間75年9月-85年3月)の拡充計画に対する協力依頼がイラク軽工業省(現工業軍事産業省)よりだされ、下記の4分野の協力に関するR/Dが88年3月に署名され、88年度から5か年計画でプロジェクト方式技術協力が進められている。

- | | |
|------------------|--------------|
| (a) 工場自動制御 | (b) 工場照明及び配線 |
| (c) パーソナルコンピューター | (d) エスカレーター |

(ii) 研修員受け入れ

毎年多くのイラク人が日本で研修を受けている。因に過去5年間の受け入れ実績は以下のとおり。

年 度	84	85	86	87	88	89
受け入れ実績(人)	71	52	59	68	64	75(予定)

<要人名簿>

1. 革命指導評議会 (Revolutionary Command Council)

議 長	(サッダーム・) フセイン大統領
副議長	(イッザト・) イブラヒーム
メンバー	(タハ・ヤシーン・) ラマダーン第一副首相
	(ターリク・) アジーズ副首相兼外相
	(サアドゥーン・) シャーキル
	(ハッサン・) アリ
	(サアドゥーン・) ハンマーディ副首相
	(タハ・モヘッディーン・) マアルーフ副大統領

2. バアス党地域指導部メンバー

書記長	(サッダーム・) フセイン大統領
副書記長	(イッザト・) イブラヒーム
メンバー	(タハ・ヤシーン・) ラマダーン第一副首相
	(タリーク・) アジーズ副首相兼外相
	(サアドゥーン・) シャーキル
	(ハッサン・) アリ
	(モハンマド・) ハムザ運輸相
	(アブデルガーニ・アブデル) ガフォール
	(サミール・アブデル) ワッハーブ内相
	(サーディ・) サーレハ
	(アブデルハッサン・) ファルーン
	(サアドゥーン・) ハンマーディ副首相
	(ミズバン・) ハーディ
	(アリ・ハッサン・アル) マジド地方行政相
	(カミル・) ヤシン

(ラティーフ・) ジャーシム情報文化相

3. 閣僚名簿

(1989. 7月現在)

大統領	(サッダーム)フセイン	×, +
第一副首相	(タハ・ヤシーン)ラマダーン	×, +
副大統領	(タハ・モヘッディーン)マアルーフ	×
副首相兼外相	(ターリク)アジーズ	×, +
副首相	(サアドゥーン)ハンマーディ	×, +
内相	(サミール・アブデル)ワッハーブ	+
運輸通信相	(モハンマド)ハムザ	+
情報文化相	(ラティーフ)ジャーシム	+
国防相	(アブデル・ジャッパール)シャンシャル	
工業軍事産業相	(フセイン)カーミル	
地方行政相	(アリー・ハッサン・アル)マジド	+
貿易相	(モハンマド・メヘディ)サーレハ	
住宅再建相	(ターヘル・モハンマド)ハッスーン	
石油相	(イサーム・アブデルラヒーム)チャラビ	
農業かんがい相代理	(アブダッラ・バドル)ダヌーク	
宗教ワタフ相	(アブダッラ)ファデル	
計画相	(サマル・マジード)ファラジ	
高等教育相	(ムンディール)イブラヒーム	
法務相	(アクラム)アブデルカーデル	
蔵相	(ヒクマト・ウマル)ムカイリフ	
教育相	(アブデル・カーデル)イッゼディーン	
厚生相代理	(アブデル・サラーム・ムハンマド)サイード	
労働社会問題相	(オメド・ミトハト)ムバーラク	
国務相	(アルシャド・アハマド・モハンマド)アルジバリ	

× 革命指導評議会メンバー

+ バアス党地域指導部メンバー

<要人往来>

<往>

1973.	12	三木特使
1974.	1	中曽根通産相(当時)
1976.	1	河本通産相(当時)
1978.	7	三池信特派大使(革命10周年記念式典参加)
1979.	4	三笠宮同妃兩殿下
1979.	7	江崎通産相(当時)(第二回日イ合同委員会)
1980.	2	園田特使
1980.	7	山田特派大使(革命12周年記念式典)
1981.	9	江崎特派大使(バグダッド見本市)
1982.	11	鳩山特派大使(バグダッド見本市)
1983.	8	安倍外相(当時)
1987.	7	木部, 山崎兩議員
1987.	9	倉成外相(当時)
1987.	11	栗山外務審議官(第五回日イ合同委員会)
1988.	8	栗山外務大臣特使
1989.	2	木部, 山崎兩議員
1989.	4	斉藤議員(国民議会選挙視察)

<来>

1974.	8	アザウイ経済相(当時)(経済技術協力協定署名)
1977.	1	マアルフ副大統領(第一回日イ合同委員会)
1980.	2	カラフ大統領特使
1980.	12	カリーム石油相(当時)
1981.	1	ラマダーン第一副首相(外務省賓客), ハッサン・アリ貿易相同行 (第三回日イ合同委員会)
1981.	5	アブダッラかんがい相(外務省賓客)
1983.	11	ハッサン・アリ貿易相(当時)(外務省賓客, 第四回日イ合同委員会)
1984.	5	アジズ外相
1985.	3	アジズ外相(外務省賓客)
1986.	9	アルワシュ厚生相(当時)
1989.	2	マアルフ副大統領(大喪礼出席)

IX バグダッド案内

1988年9月

在イラク大使館

1. 空港にて

バグダッド・サッダーム国際空港は市中心から南西20 kmの所に位置しています。空港と市中を結ぶ交通はタクシーしかなく、タクシーサービスのカウンターで頼みます。市内までの料金は地区毎に決まっていますが、大体6-10 ID(イラク・ディナール)です。一部の高級ホテルでは送迎サービスを行なっています。

(1) 空港での通貨持込、持出し

通貨の持込は、外貨(イスラエルの通貨を除く)は申告をした上で無制限に持ち込めますが、イラク・ディナールの持込は25 IDまで、持出しは、イラクディナール5 IDですが、外貨は申告額までとなっています。通関の入国時に最後の窓口で外貨申請をしますが、その際の半券が出国時に必要になりますので大事に保管して下さい。

(2) 通貨

通貨はイラク・ディナール(ID)。

通貨は1/4, 1/2, 1, 5, 10, 25ディナールの6種類、硬貨は5, 10, 25, 50, 100, 250, 500フィルス(1000フィルス=1ディナール), 1ディナールの8種類が通用しています。

現在の換金レートは1 ID = 3.22米ドル = 約400円です。

(3) 航空会社エージェント

ビジネス街であるサアドゥーン通り沿いに各航空会社の事務所が集まっています。

イラク航空	(電話 8870051)
日本航空	(7188644)
英国航空	(8886446)
ルフトハンザ航空	(8889771)
フランス航空	(8868341)

航空会社によってはオーバーブッキング、出発時間の変更などの事態も間々あるので少なくとも出発の2時間前には空港に到着していたほうが良いでしょう。

2. ホテル・レストラン事情

(1) 主なホテルには、以下のような所があります。

ラシッド・ホテル (Al-Rasheed)	ハイファ通り, 電話7766127
	シングル: 27.5 ID, ダブル33 ID
バビロン・ホテル (Babylon)	ジャドリヤ 7761964
	シングル: 24 ID ダブル: 29 ID
マンスール・メリア・ホテル	ハイファ通り, 5370041

(Al - Mansour Melia)	シングル：27.5 ID	ダブル33 ID
シェラトン・ホテル (Sheraton)	フィロドゥース	8875641
	シングル：27.5	ダブル：33 ID
メリディアン・ホテル (Meridian)	フィロドゥース	8889540
	シングル：27.5 ID	ダブル：33 ID

以上のホテルはいずれも5つ星。これらよりやや安い所では

ノボテル・ホテル (Novotel)	アンダルス	7188166
	シングル：22 ID,	ダブル26.4 ID
バグダッド・ホテル (Baghdad)	サアドゥーン通り	8877041
	シングル：22 ID	ダブル：26 ID

等が有ります。

長期滞在用としてキッチン付きスイートを備えたホテルには

アル・ハムラ・ホテル (Al - Hamra)	ジャドリブ	7766982
	25.650, 34.200, 47.750 ID	と各種有り
シャヒーーン・ホテル (Shaheen)	マスバハ	7192064
	25, 35 ID	と各種有り

等が有ります。

(2) ホテル支払い

宿泊料、国際電話代等の支払には外貨からの換金証明が必要です。主要ホテルにはラフィダイン銀行支店が有ります。

(3) 銀行

街中の主要ホテル又はラフィダイン銀行支店で換金出来ます。交換レートはどこでも同じです。

銀行の業務時間は、

街中：08：00 - 12：30 及び 13：30 - 17：30

主要ホテル：08：00 - 13：00 及び 14：00 - 17：00

となっています。

(4) レストラン

上記のホテルはいずれもレストランを完備しています。とくにアル・マンスール・メリア・ホテルには中華、スペイン、イタリア料理の各レストランがあります。

街中のレストランには次のようなものがあります。

ハーン・マルジャーーン (Khan Marjan) 電話 8870851

昔のキャラバン・サライ (隊商宿) を改造した由緒ある店で、バグ

ダットの古い音楽を聞きながらアラブ料理が楽しめます。

ムディーフ (Mudhif)

電話 8 8 7 8 7 2 5

レバノン料理。テーブル一杯に並ぶメツア (前菜) と焼きたてのアラブパンがおいしい。

バツラーム (Ballam)

7 7 6 5 7 2 3

チグリス川でとれる鯉を焼いたマスグーフはイラク独特の料理。淡泊な味なので日本人の口にも合います。

インド料理・トルコ料理店 (Indian and Turkish Restaurant)

チグリス川沿いにあり、夜景が美しい。

なお、ホテル、レストランで出される生水は飲水を控えた方が望ましく、ミネラル・ウォーターを注文した方が無難でしょう。(ミネラル・ウォーターは街中のスーパーマーケットでも入手出来ます。)

3. 市内観光

市内交通手段にはタクシーとバスがあります。タクシーは白とオレンジ色に塗分けられた車で多少大きな通りであればすぐつかまります。メーターを作動させないので値段は交渉になります。高い金額をふっかけてくることが多いので事前に値切った方が良いでしょう。ちなみに 5 km 程の距離で約 1 I D です。

バスは二階建ての路線バスと乗り合いバスがあり、路線バスは各バス停に停車するバスの番号と行き先が書いてあります。しかしアラビア語でしか書かれていないということと、時間が不規則であること、また時間帯と路線によっては極めて混雑することなど、不便さは否めません。

4. その他の生活上の参考事項

(1) 休日・勤務時間

休日は金曜日になります。

平日に勤務時間は、官庁で土 - 木曜日 : 0 8 : 0 0 - 1 4 : 0 0

木曜日 : 0 8 : 0 0 - 1 3 : 0 0 となっています。

なお、イスラーム暦ラマダーン月は官庁の勤務時間は短縮されます。

一般の商店は夕方まで営業しています。

1 9 8 8 年の祝・祭日は次の通り。

1 月 1 日 元旦

1 月 6 日 陸軍記念日

2月 8日	1963年革命記念日
3月21日	スプリング・デー(春分の日)
5月 1日	メーデー(労働者の日)
*5月17-19日	イード・ル・フィットル(ラマダーン明け祭日)
7月14日	1958年革命記念日
7月17日	1968年革命記念日
7月23-26日	イード・ル・アドーハ(巡礼月明け祭日)
8月11日	イスラーム暦新年
8月22日	アーシューラー(イマーム・フセイン(マホメットの孫) 殉教記念日)
10月22日	マホメット誕生祭

*印はイスラーム暦に従って決められ、正確な日時は前日に政府が発表します。

(2) 写真撮影

空港、軍事施設、港、橋等は治安上の理由から撮影は禁じられており、また宗教施設や女性にカメラを向けることも避けたい方が良いでしょう。従って、市中での撮影は基本的に避けたい方が無難で、万一、記念写真を撮る祭も、周囲のイラク人(できれば警官)に許可を得てから撮影をするような心掛けが必要です。

(3) 病院

緊急病院には以下のような所があります。

メディカル・シティ	バーブルアッザム、電話8870522
セント・ラファエル(私立)	カラダ 7196081
キンディー	アッサウラ通り 4168021
カラマ	アルカラマ 5375141
ヤルムーク	ヤルムーク・シティ 5515591
イブン・アルナフィース	アングルス 7195111

警察事件関係の治療は私立病院では受け付けていません。万が一入院という事態になったら、水、食糧は自ら調達しなければなりません。

(4) 主要連絡先

日本大使館 929/17/70, Hay Babil, P. O. Box 2369,
al-Wiyah, Baghdad
電話 7195156-7,
勤務時間 08:00-14:00(土-木)
08:00-13:00(木)

金曜日休館

領事部受付 09:00-13:00(土・日)

09:00-12:00(木)

JETRO事務所(サアドゥーン通り)

電話 7186421

5. バグダッド案内

(1) バグダッド市の沿革

バグダッドはシルクロードの要衝としてチグリス川のほとりに開けた古い都です。

チグリス川がバグダッド市内を貫き、はるか西方をユーフラテス川が流れ、両河の間には何本もの運河が走っています。二つの川を利用してインド、東アジア、アフリカとも交易し、北はロシア、スカンジナビアまで交易の手を伸ばしていたことは、当時のイスラーム貨幣がこれらの地で発見されたことを見てもわかります。

バグダッド市が建設されたのは8世紀、初期アッバース朝で、当初チグリス西岸に円城として建設。その後東岸(現在ルサファと呼ばれる地区)に拡張、11世紀に市壁が完成して市の基礎が築かれました。アッバース朝期には全盛を極めたバグダッドですが、13世紀半ばモンゴル人の襲撃にあつて完全に破壊され、その後オスマントルコにより征服(1534年)、1638年までイランのサファビー朝とオスマントルコの間でバグダッドの取り合いが行なわれるという不安定な状況が続きました。18世紀始めバグダッドにオスマントルコの総督が置かれ、さらにイギリスの東インド会社商館が置かれるなど、バグダッドの重要性は徐々に増してきたものの、本格的に繁栄を取戻したのは今世紀、イギリスがオスマントルコ領であったイラクに侵入、それに乗じてイラクの独立気運が高まってからのことで、小アジアを経てヨーロッパにつながる鉄道建設が開始されました。

1920年から12年間のイギリスの委任統治を終えてイラクが独立するとバグダッドはその首都として栄え、特に1950年代にチグリス、ユーフラテス川の治水に成功して以来洪水に悩まされることが減り、市は拡張、現在に至っています。

1968年に成立したバアス党政権は、特に現大統領のサッダーム・フセイン率いる政権になってから都市開発に力をいれ、現在のバグダッドの人口は約350万人です。

(2) イラクの気候条件

一般的に高温で乾燥した半大陸性気候で、夏は4月-9月と長く7-8月が一番暑く、50度を越えることもまれではありません。また、日中と夜間の気温の差が大きいことも独特です。冬は比較的短いものの一番寒さの厳しい1月には0度以下になることもあります。バグダッドの年間平均降雨量は200ミリ弱と、ほとんど雨は降りません。

(3) イラクの宗教、民族、言語

宗教はイスラーム教が大半を占め、スンニー派とシーア派に分かれます。キリスト教徒も若干います。民族的にはアラブ人が70%、その他クルド人、アッシリア人、アルメニア人がいます。言語はアラビア語、クルド語が公用語で、業務は英語も通用します。

(4) 在留 人

バグダッドにおける在留 人数は約300名で、その大多数が当地に進出している本企業(約50社)の社員及びその家族です。代表的な本邦企業は、三菱商事、三井物産、伊藤忠、丸紅、住友商事、日商岩井、トーマン、兼松江商、日本航空、東洋エンジニアリング、新潟鉄工所、三菱重工、日本電気、明電社、三菱電機、小松製作所、清水建設、大成建設、フジタ工業、住友建設、不動建設、鹿島建設等(順不動)。なお、イラク全土の在留邦人数は約500名です。(1988年9月1日現在)。

バグダッド日本人学校は昭和52年4月開校。本邦よりの派遣教員7名により、幼稚部4名、小学部15名、中学部2名、計21名に対して本邦における小中学校同様全日制の教育をおこなっています。(1988年9月1日現在)

(5) バグダッド市内観光

ア. バグダッド旧市内――オールドスーク

かつての市壁に囲まれバグダッドの中心であった旧市街には数多くの歴史的建築物が現在も残っており、1918年に建設されたラシッド通りの両側には40-50年代の建築様式を残した家屋、商店が並び、19世紀以降商業中心として栄えた32のスーク(市場)があります。特にシュハダ橋周辺のチグリズ川東岸、ラシッド通りの間には諸スークが所狭しと並んでいます。ムスタンシリア学校の向いにはじゅうたんや銀細工などが、ラシッド通りからチグリズ川にはいる路地には銅細工の店があります。キファ通りとクラファ通りの間の路地には、二階が木造の張出しになっている今世紀始めの建築様式が残存しています。クラファモスク裏には小鳥スークが常時開かれています。金曜の午前中には同モスク周辺で動物市が開かれ、大賑わい。またアラビア語の本を捜したい時には、シュハダ橋北の本屋スークの「ダール・アル・ムサンナ」が老舗です。

シュハダ橋下には渡し船もあり、スーク見物を終えたら船で対岸にわたるのもおもしろいでしょう。一回一人150フィルス。

イ. 歴史的建造物

スーク周辺にはモスク、アッパース朝宮殿ムスタンシリア学校等の歴史的建造物が立並んでいます。

アッパース朝宮殿はシュハダ橋北、チグリズ川沿いにあり、宮殿といわれていますが、実際には学校跡と思われます。後期アッパース朝(1175-1230)の建築。ただし、現在国防省の裏手にあるため車では入れないことが多いようです。スークの西、

チグリス川沿いには1234年に建られたアッバース朝建築の代表ムスタンシリアがあり、世界最古。

ラシッド通りの東側には1356年建設のマルジャー・モスク、1841年建設のカトリック・シリア教会などがあります。教会の東、クラファ通りに面した所にあるクラファ・モスクはもともと902年に建てられたものですが、現存しているものは18世紀の再建です。そこから南東に少し離れた所にあるガイラニ・モスクは土造りの素朴な感じが美しい。

高速道路の下にはかつてバグダッドを囲んでいた市壁のうち唯一残存しているバール・ワスタ(ワスタ門)があります。

旧市街地から8kmほど北西に行くとシーア派イスラーム派の聖地カーディミーヤがあり、16世紀に建設された黄金の聖廟には常に信徒が集まっています。その門前には金スークがあります。

ウ. 博物館

マトハフ広場に面したイラク博物館には、古代シュメール時代からササン朝ペルシャ時代に至るまでの数多くの発掘品が展示され、見ごたえ十分。ムスタンシリア学校近くのバグダッド博物館にはイラクの風俗を示す人形が飾られています。

エ. バグダッド近郊の遺跡

バビロンーイシュタル(勝利の女神)門、空中庭園、バビロンのライオン、バベルの塔跡は有名です。バグダッド南90kmのところユーフラテス川のほとりにあり、自動車で1時間、半日で観光ができます。

クテシフォンーバグダッド郊外28km、チグリス川東岸にあるササン朝ペルシャの遺跡。歴史上有名なカーディシーヤの戦いを描いたパノラマは臨場感あふれます。

アガルクーフーバグダッド西方20kmのところであり、巨大なジグラート(階段上の神殿)の名残があります。

無名戦士祈念碑(Unknown Soldier's Monument)

イラク建国以来、祖国防衛のために命を捨てた無名戦士を祈念する碑で、1982年に建築されている。その建物は教々のシンボルにあふれており、例えば今にも倒れそうに斜めに立っている蓋状の物体(総重量550トン)は戦場に倒れた兵士たちを、また螺旋状の塔は古代寺院の尖塔(ミナレット)を象徴している。外国要人が訪問の際に献花を行なう。

殉職者慰霊碑(Martyr's Monument)

日本の建設会社の協力を得て完成した戦没者の慰霊碑。地上部の向かい合わせに立つ二つの碑は船の帆をかたどったものといわれており、その中央にはイラクの国旗が設置

してある。地下部には展示室，講義室，ホールなどが設けられており，現在イ・イ紛争関係の資料展示室をつくるためイランからの捕獲品やイラク国軍の制服等を搬入予定である。

イラク博物館（The Iraqi Museum）

考古学上貴重な資料を集めた，世界でも指折りの博物館。先史時代に始まりシュメール，バビロン，アッシリアなどの古代からイスラム時代に至るまで，人々の生活様式を偲ばせる発掘品が年代順に展示されている。昨年奈良シルクロード博覧会に展示された人面有翼獣像（アッシリア期）その他の考古物は当博物館からの出品である。イ・イ紛争中は閉館していたが，停戦後に一般公開されるようになった。

バビロン（Babylon）

バビロンには，ハムラビ法典で有名な古バビロニア（BC1830～1180）と新バビロニア（BC626～539）の都が置かれたが，現存する遺跡は後者のもので，ネブカドネザル王によって建設されたものである。かつて広大であったバビロン市も時代とともに崩壊し，中心部の王宮を残すのみとなっている。王宮内には行列道路，ライオン石像城壁の浮き彫りなどをみることができる。旧約聖書に記述のあるバベルの塔（高さ90mといわれる）は南の神殿内にあったと考えられているが，現在はその基礎が窪地になっているだけで何も残っておらず，世界七不思議のひとつに数えられた空中庭園（ネブカドネザル王が望郷に涙する王妃を慰めるために造ったといわれている）のあった場所や王宮内にある諸建築物の用途など解明されていない問題も多い。フセイン大統領の命により，遺跡復興計画が現在進行中である。

